

『「善通寺俘虜収容所」ハンドブック』所蔵館（2021 年 12 月 9 日現在）

1. 善通寺市立図書館
2. 香川県立図書館
3. 国立国会図書館

以上

本書刊行の意義

陸軍省は1941（昭和16）年12月29日俘虜情報局を開設。翌42年1月14日香川県仲多度郡善通寺町（現善通寺市）に太平洋戦争初の捕虜収容所を設置し、同月31日の香港、2月1日の上海各収容所がこれに続く。

善通寺収容所は9月23日に大阪収容所が開設されるまでの約8カ月間、国内唯一の捕虜収容所として軍中央と連絡をとりながら業務を遂行している。幸いなことに、その間収容所で実務を担当した吉田茂（1911-61）主計中尉の集録した資料が終戦時の焼却を免れ、善通寺市立図書館に所蔵されている。この「善通寺俘虜収容所情報綴」には諸報告書類の写しや作成の参考とした原資料、諸規定集、写真などが含まれ、約1,400ページの全文が翻刻されている。（以下「吉田文書」）また当時の新聞各紙はこの国内初の収容所の様子を詳しく報じた。一方善通寺で過ごした各国捕虜の回想記が戦後海外で発表され、収容所は消えたが善通寺を縁とした人と人との関係は国境と世代を越え今も続いている。

本書の特色は、善通寺収容所を巡る戦中戦後の出来事を初めて時系列で記述した点にある。以下その概要を述べたい。

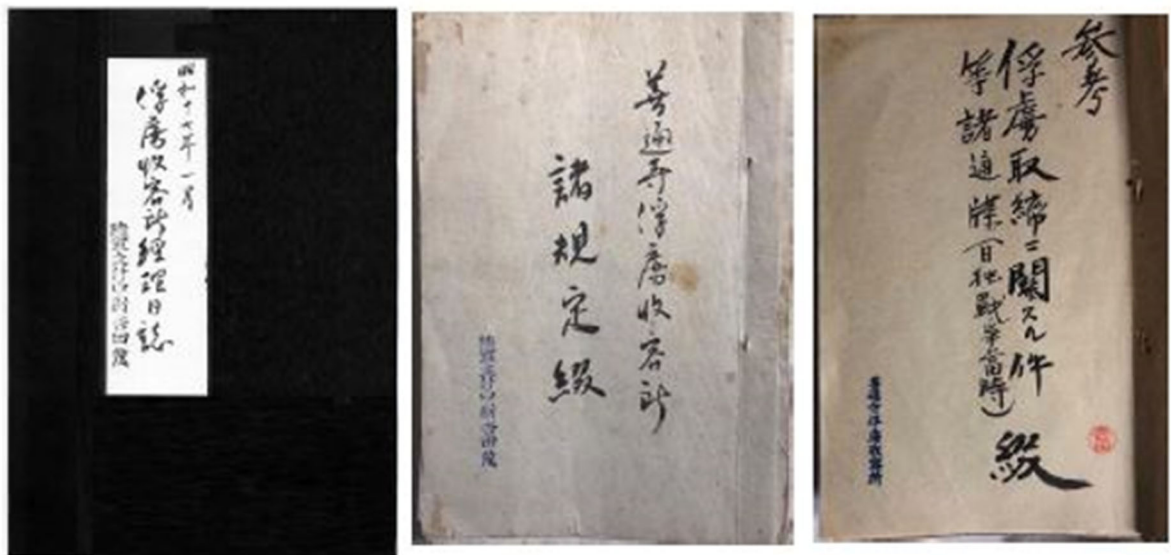


図1 「善通寺俘虜収容所情報綴」（「吉田文書」）
善通寺市立図書館蔵

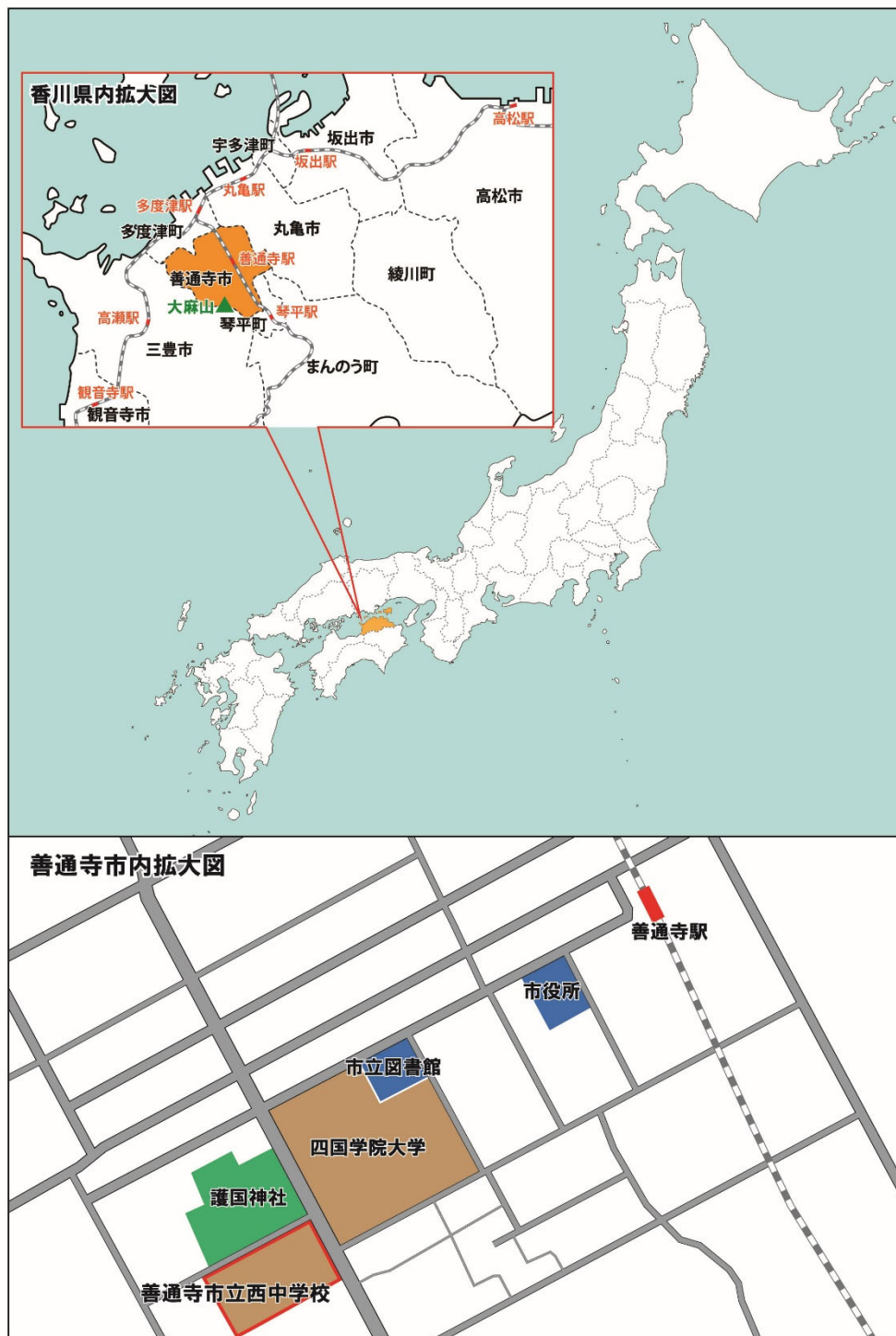
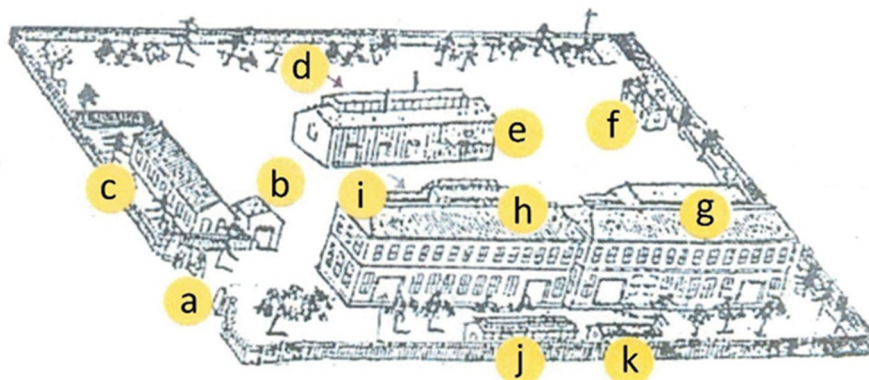


図2 善通寺収容所があった場所
(図左下の善通寺市立西中学校がある、赤い線で囲った部分)
©2020 しゅうきちD



a	正門
b	衛兵所・面会所
c	軍直轄製パン工場
d	炊事場
e	浴場
f	飼育場
g	1号棟 (1階は本部事務所)
h	2号棟
i	洗面所・便所・物干所
j	縫製作業場
k	営倉

図3 善通寺収容所のイラスト

出典：茶園義男編．大東亜戦争俘虜関係外交文書 第1巻．不二出版，1993，p. 339.

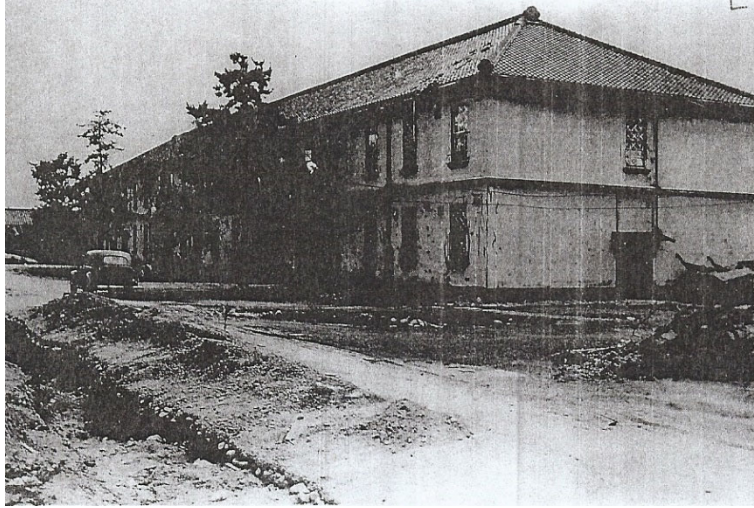


図4 将校用捕虜棟（1号棟）

出典：善通寺市立図書館蔵。

Caroline Burkhart 編. *Zentsuji POW Camp, Shikoku.*



図5 下士官兵用捕虜棟（2号棟）

出典：善通寺市立図書館蔵。

Caroline Burkhart 編. *Zentsuji POW Camp, Shikoku.*

1. 1941 年

1.1 設置決定

太平洋戦争開戦に伴い捕獲した連合軍将兵を收容するため、陸軍省は捕虜收容所設置を決定。船舶輸送の負担、管理・労役の便、技術者活用を考慮し内地の善通寺、中国の上海・香港、南方のマニラ・シンガポール・バンコックが候補地となる。開戦 4 日後の 1941 年 12 月 12 日、軍務局長名の通牒で支那派遣軍・南方軍各参謀長宛にその準備を命じ、同月 20 日には善通寺、上海、香港の捕虜收容所臨時編成要領を通知。善通寺師団参謀長依知川庸司（1893-1974）大佐は同 29 日の陸軍省人事局長からの照会に対し、徳島に移転した歩兵第 43 連隊の兵舎だった倉庫を收容棟として使用する旨回答。翌 30 日、師団経理部長関口信大佐は経理部員に收容所新設を告げ、500 名收容を前提に捕虜の衣食住に付き検討し正月明けの 4 日に報告するよう命じた。

1.2 善通寺師団

1898 年、善通寺に第 11 師団司令部が置かれた。初代師団長は乃木希典（1849-1912）中将。同師団は 1932 年 1 月の第一次上海事変以降大陸に動員され、40 年満州に永久駐屯が決定したため、師団の留守師団を基幹として同年 7 月第 55 師団が編成される。41 年 9 月に編成された 55 師団の留守部隊（善通寺師団）が、捕虜收容所の編成に当たる。（なお満州の 11 師団主力は 45 年 4 月、本土防衛のため四国に移駐する）



図 6 善通寺師団司令部
（現陸上自衛隊善通寺駐屯地資料館）
出典：Wikimedia Commons
File: [Nogi-kan Zentsuji Kagawa Pref01s5.jpg](#)

2. 1942 年

2.1 設置

年が明けた 1 月 6 日、関口経理部長は年末に与えた課題の報告を部員から聞き、現行の俘虜取扱規則を実情に合わせ改定する意向に付き中央に照会するよう命じる。そして収容する捕虜に対する博愛心など経理としての方針を示すとともに、5 名の将校を創立委員とする。そのひとり吉田茂（1911-61）主計中尉は高松高商卒、語学堪能。日本銀行大阪支店勤務中に臨時招集されていた。

8 日、捕虜 500 名分の寝具と外套受領のため、部員を広島陸軍被服支廠に派遣。

10 日、陸軍大臣の収容所設置命令電報が到着、軍刀拳銃を収容所へ補給。

14 日、陸軍省は善通寺師団兵務部長・水原義重（1887-1968）少将の収容所長兼務を発令。同日水原初代所長が師団任命の所員に、師団長永見俊徳（1888-1971）中將が所長・所員にそれぞれ訓示し、事務を開始した。翌日の捕虜収容を控え水道電灯工事は終わったが、炊事電話は未設置。収容所に派遣される衛兵 18 名の食事を正門向いの西部第 35 部隊に依頼、筆工など傭人 3 名を選定。

15 日、酒保を所員事務所に定める。トラックを借上げ事務用品、パン、スープ用牛骨などを運搬。暖房用木炭 25 俵、石炭 10.2 トンを準備し、午後の捕虜到着に備えた。

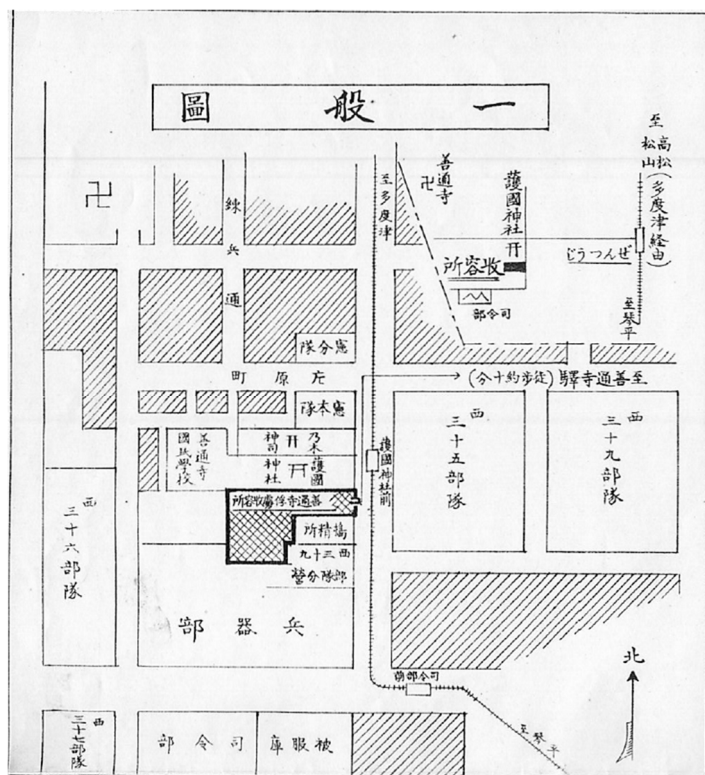


図 7 善通寺収容所の周辺図
出典：吉田文書. D-21.

2.2 高松港経由の捕虜

15日13時15分、進藤一（1918-83）海軍少尉ら9名に護衛された捕虜9名は善通寺駅に着き、出迎えた田所中尉とともに徒歩で収容所に向かい14時到着。高松駅から朝日、毎日、香川日日新聞の記者が初の捕虜に同行している。記事には南国から来た捕虜が寒さに閉口する様子や、最近の戦況を記者に逆取材したことが書かれている。同じ列車で着いた陸軍省経理・軍務・俘虜情報局の視察員3名は差し回しの車で司令部に向かい、師団長に挨拶の後収容所を訪問したと思われる。

捕虜8名は赤道に近い太平洋の英領ギルバート諸島で捕らえられた。英国人ウィリアムズ（1918-94）は英植民地省の地区行政官。7名はニュージーランド人で、ジョーンズ（1920-2017）ら3名は沿岸監視員、4名は非武装の兵士。彼らは42年1月7日日本に



到着し、横浜山手の洋館に抑留されている。横浜で中国青島の米領事館付だった米海軍無線通信手グリフィスが加わった9名は、善通寺で下士官兵用の2号棟1階に収容される。500名は楽に収容できそうな建物でまったく人の気配がなく、部屋の畳が敷かれた寝台の足元には毛布とアルミの皿、茶碗が整然と並んでいた。

図8 捕虜（2号棟1階）
提供：ジョーンズ（写真の最前列）

2.3 多度津港経由の捕虜

15日15時、吉田中尉は善通寺陸軍病院の自動車で捕虜用の外套を多度津へ運ぶ。はるか沖合に12千トン余の貨客船「あるぜんちな丸」が見えた。風浪高く13時から停泊。16時、俘虜情報局はグアム島捕虜収容の予定稿を新聞社に流す。17時、船内の捕虜が食事をしていないと連絡を受け、吉田は師団司令部に用意したパンと砂糖の運搬を手配。依知川参謀長は乗馬した細谷雄平（1904-87）中尉を先導に、捕虜を四列縦

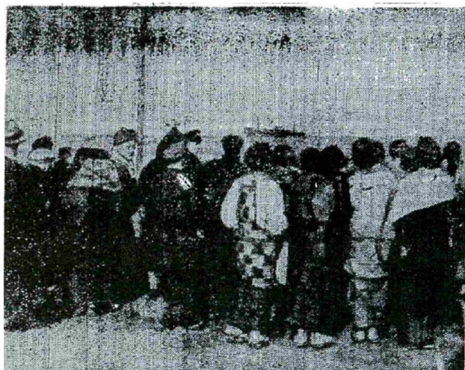


図9 多度津港の見物人
出典：朝日新聞。1942-01-16.

隊で善通寺まで約6キロ行進させる計画だったが、上陸が遅れ断念。吉田は琴平参宮電鉄と電車8両の借上げ契約を済ませ、外套は収容所に持ち帰る。衛兵は配備に付き、電話開設も済み、準備は完了していた。20時半捕虜・抑留者が携行品とともに全員上陸し、依知川参謀長は港務所2階で海軍側から受領。続いてグアム総督兼米海軍司令官マクミラン（1889-1983）大佐と会見。当日最大の見せ場だが時間が遅く、翌日の朝刊には間に合わない。上陸から約1時間

後、悪天候を物ともせず子供を含む住民が蟠集して見守る中、捕虜は四列縦隊で800メートル離れた多度津停留所へ。任務を終えた海軍の護送部隊51名は多度津町の花菱旅館泊。宿泊客から熱燭が差し入れられる。護国神社前停留所で電車を降りた476名の捕虜は、22時半ころ雪を踏んで収容所に入った。先に寝ていた9名は突然の点灯と大勢の米国人の声で、一瞬救出作戦だと勘違いする。温かい野菜スープを与えられ、23時半就寝、所員の帰宅は1時ころ。なお多度津港に上陸した一行中の4名—米国における日本の利益代表国であるスペインの宣教師2名と生後2か月の女兒を抱いた米海軍下士官の妻—は駅前の大見屋旅館に収容された。

2.4 捕虜到着後の収容所（一月）

捕虜は翌朝8時過ぎに起床、外套と上履きを支給される。提供された食材を捕虜から炊事当番を出して炊事し、正午に朝食兼昼食。新聞記者が頻繁に来所。この日門札を掲げる。14時、水原所長が収容棟前で約20分間全員に訓示した後、憲兵分隊長立会の下で2日間所持品検査。夕食は17時。翌17日、衛兵に伴われて捕虜が町へ買出しに出る。朝14、5名が1頭分の豚肉を搬入。昼からの3名は隣接する神社で帽子をとり最敬礼し、500メートルほど離れた配給所から鶏卵15キロ入りの箱を軽々と運ぶ。この日半数が入浴。日本の習慣と違い米海軍看護婦5名を先に入浴させた。道後温泉のある愛媛県出身の水原所長は翌日収容所を巡視、湯のぬるさに驚く。19日、朝の体操開始、歯ブラシなど日用品を支給。来所した日本ニュース社が捕虜の生活を撮影。神戸元町の会社が酒保で扱う商品のセールスに来訪。捕虜からの要望にあった米国への通信に付いては、善通寺郵便局から当局へ照会する旨の回答があった。依知川参謀長は捕虜到着翌日の地元紙上で住民に対し大国民として振る舞い皇国の偉大さを捕虜に知らしめるよう求めたが、一部町民は隣の護国神社に集まって捕虜を見物。見かねた水原所長が20日の新聞紙上で見世物ではないと苦言を呈している。英国人捕虜ウィリアムズは群衆が投げ込んだ新聞に高松港到着時の写真を見つける。朝日新聞は



図10 別れを惜しむヘルマーズ一家
出典：吉田文書。記録写真 No. 12.

21日、捕虜を見た善通寺の国民学校児童の感想を掲載。同紙が捕虜の一日の生活を紹介した22日、非戦闘員134名は18時に収容所を出て多度津港経由神戸へ。出発前大見屋旅館の母娘は夫との面会を許される。23日、神戸税関職員が捕虜の所持品を出張検査。（1月30日、大蔵省が捕虜の検査は不要と通達）25日、日本放送協会係員が来所し、29日まで捕虜の家族へのメッセージを録音。海外ラジオ放送に使用するもので、英国人は拒否。29日午後、進藤海軍少尉の護送でウェーク島の捕虜が到着。1月19日横浜港で下船した20名中の13名。30日、小説

家秦賢助来所し、捕虜の座談会実施。31日、日本赤十字社が俘虜救恤委員部を設置と各紙が

報道。同日午後、第1回将校会報。収容所 No. 2 の金武省三中佐が、陸軍大臣、軍務局長、軍事課長の伝達事項要旨を説明。

2.5 二月

5 日、パラチフスの保菌者が発見され善通寺陸軍病院に入院。収容所から衛兵と捕虜衛生兵を派遣し毎回の食事を届ける。7 日付「俘虜収容所経理概況」に、一般人から捕虜に対し金 2 円と幼児服の寄贈があったが取扱規定未制定のため保留中とある。20 日、捕虜の引率外出開始。2 班に分け、週 1 回程度実施。朝の点呼の後約 1 時間、護国神社や陸軍墓地方面へ。17 日、高松百十四銀行善通寺支店で両替を希望する捕虜 47 名の米ドルを円に交換。同日、ニューギニア方面で撃墜された豪州空軍の飛行艇乗組員 5 名を収容。さらにこの日、東京からスイス公使館員が米国大使館からの救恤品を持参。スイスは日本における米国の利益代表国。18 日、俘虜情報局長官上村幹男（1892-1946）中將が視察のため来善。夜シンガポール陥落の祝賀会を偕行社で開催。上村長官と永見師団長は陸軍大学校第 33 期の同期。翌 19 日、上村ら一行 3 名は金比比羅宮参拝、20 日帰京。19 日、開戦初頭のマレー作戦で捕虜になったオランダ潜水艦乗組員 2 名、英空軍 1 名の将校を収容。26 日、捕虜への金銭支払いの準備として、善通寺郵便局長と打合せ。逃走盗難予防のため一定額以上を郵便貯金にさせる計画。（法律上外国人名では問題があったためか、預金名義は主計所員とし、捕虜各人の「貯金授受表」で管理） 27 日の地元紙に水原所長談話。収容所から 3 キロほど南の大麻山開墾事業に当日から捕虜が参加する旨の通知と地元民への注意事項。28 日、国際条約



に基づき、捕虜将校に日本の同階級の将校と同金額の俸給を支給。（下士官兵は原則無給で食料などが無償支給されるが、開墾事業などの作業には賃銀が支払われる） 捕虜将校は収容所に対し、俸給から病人および働けない高齢の下士官兵に毎月一定額を支払うように依頼。このころ英植民地省のウィリアムズは水原所長と交渉し、少尉待遇を獲得した。

図 11 大麻山の開墾作業

出典：善通寺市立図書館蔵。『善通寺俘虜収容所 記録写真』No. 28.

2.6 三月

3 日、抑留中の米海軍看護婦に化粧品支給。11 日、改装した所内北側小屋で縫製作業開始。12 日、看護婦 5 名と退役軍人 1 名が神戸へ出発。看護婦の代表が吉田主計中尉夫人へ礼状と記念品を残す。同日赤十字国際委員会駐日代表が、俘虜情報局大佐と

ともに来所。所内と大麻山作業を視察、待遇に不満なしと報告。収容所は25日付旬報の中で俘虜情報局に激しく反論している。発端は収容所作成の2月のスイス領事館員とマクミラン総督との会見報告。両者が使った英語を優遇と訳したことを俘虜情報局が咎めたため。31日、陸軍省内に俘虜管理部開設。俘虜情報局員が兼務。

2.7 四月

1日、捕虜の歯科医中尉が、赤十字国際委員会駐日代表へ電動式の歯科機械購入を依頼する手紙。(日本赤十字が曲折を経て同年10月約500円で購入し、設置)2日、酒保開設。6日、海軍は捕虜を収容所に引き渡す前に尋問を行うため、神奈川県大船に仮収容所開設。10日、労働を免除されている捕虜将校の希望により講習会計画作成。非番の下士官兵の参加も許し、会議室での開催には所員が立ち合う。講師は捕虜将校で、所長方針による日本語教育は日本人将校が担当。18日、ドーリットル空襲。警報が鳴った時、収容所は防火演習中。所長判断で翌日の英字新聞は注意書きとともに捕虜へ配布し、引率外出は当分中止。この空襲の影響で21日に予定されていたスイス公使館員の再訪は23日に延期。情報局発行の29日付「写真週報」は、空襲とともに収容所紹介記事を3ページにわたり掲載。

2.8 五月

30日、東条英機(1884-1948)が現職の首相としては初となる四国訪問。午後香川県庁で訓示の後琴平町を通過して善通寺へ。護国神社参拝後、司令部で師団長および



水原所長から状況報告を受ける。当月下旬分の報告書によると、スウェーデン公使館員がオランダ人捕虜との面会のため来所。スウェーデンは日本におけるオランダの利益代表国。また京都帝国大学の医学部講師が西洋人の耳垢・体臭研究のため来所。(8月にも名古屋大学教授が発汗の研究のため10日間収容所滞在)

図12 高松市に着いた東条首相

出典：香川日日新聞。1942-05-31.

2.9 六月

8日、151名の捕虜が多度津港から荷役作業のため大阪へ向かい、翌朝大阪市立運動場に収容。指揮者の細谷中尉は酒保の運営やプールでの遊泳などで捕虜に配慮を示す。17日、第一次日米交換船「浅間丸」が横浜を出港。善通寺に一時収容された看護婦5名、大見屋の母娘、中国青島領事館付で外交官特権を主張した米海軍下士官が乗船。

2.10 七月

18 日、「監禁者心得」を定め、逃亡しない旨の宣誓書への署名を拒んでいた 5 カ国 39 名の捕虜を 2 号棟 1 階に監禁。暴力を用いることはなかったが、首謀者 1 名が営倉入り。(最終的に彼らが署名したのは 2 代目所長が所内を巡視した 9 月 22 日ころ) 19 日、ラバウル方面で捕虜になった豪州陸軍将校 52 名を収容。(一方、同方面から中国の海南島へ向かった 1 千余名の豪下士官兵は輸送船が 7 月 1 日米潜水艦の雷撃を受け沈没、全員死亡) 30 日、シンガポールで捕虜になった豪陸軍カズンス (1903-64) 少佐の書類のみが届く。戦前著名なアナウンサーだった彼は参謀本部の恒石重嗣 (1909-96) 少佐の命令により、東京の日本放送協会で放送技術向上のために雇員として勤務。

2.11 八月

1 日、水原少将は宣誓拒否事件のためか収容所長兼務を解かれ、後任の所長に水原と同じ愛媛県出身の佗美浩 (1891-1970) 少将が発令された。佗美は開戦初頭マレー半島コタバル敵前上陸で殊勲を立て、3 月に感状を授与されている。15 日、日本天主教総務院が捕虜のカトリック信者代表ヘンショー (1918-2003) 米海軍少尉に宗教書 51 冊を寄贈。15 日、俘虜管理部の委嘱により企画院主催で陸海軍、内務、厚生、鉄道、逓信等の関係官会議を開催。労働力不足の解消と特殊業務遂行のため、当面 3,500 名程度の捕虜の内地移送を決定。(9 月、大阪・神戸・東京・川崎・横浜、翌年 1 月、九州・八幡に収容所設置) 22 日、香川県高松駅で捕虜の荷役作業開始。24 日、宣誓を拒否していたマクミラン総督を従兵とともに台湾収容所へ移送。

2.12 九月

2 日、特殊技能(機械・電気・無線通信・土木)を有する捕虜 25 名を川崎収容所へ移送。8 日、高松に向かう列車の中で丸亀の女子学生が衛兵の勧めるままに捕虜からサインをもらう。外国人捕虜の国内移送を目前として防諜上好ましくない、外国人崇拜だと問題になる。9 日、スラバヤ沖海戦で沈んだ英重巡洋艦エクセターのゴードン (1896-1973) 艦長ら 14 名を収容。

2.13 十月

当月末、赤十字国際委員会在日代表より大量の救恤品(赤十字小包)が寄贈され、処分方針を決定。

2.14 十一月

3、5 両日参謀本部から事前連絡があった東京東方社の 2 名が来所、対米謀略宣伝用の写真を撮影。13 日の地元紙に、捕虜も従事した大麻山開墾による収穫の記事掲載。

29 日、収容所の捕虜軍医・衛生部員 40 名を門司へ派遣。徴用船 4 隻で南方から内地に輸送され、赤痢の症状がみられた 500 名以上の米英捕虜に対する防疫対応のため。

2.15 十二月

5 日、香川県坂出駅で捕虜の荷役作業開始。捕虜が日曜日の晩風呂場の脱衣場で楽しむ演芸会は盛況の一途をたどる中、初めてのクリスマスを迎える。28 日、万国赤十字代表の視察。待遇良好で捕虜の健康状態は申し分なく、書信や慰問品は滞りなく届いていると発表。12 月末現在の捕虜数は 320 名。国籍は米 234、豪 62 とこの両国で 92.5 パーセント。階級は将校 132、下士官以下・非戦闘員 188 と将校の比率は 41.3 パーセント。

3 1943 年

3.1 一月

19 日、将校 150 名が入所し下士官兵 50 名が出所。到着した米陸軍中尉はフィリピンのパターンで捕虜になり、前年 11 月に日本に送られ大阪府の収容所で過ごす内に栄養失調で次第に視力を失っていた。ジョーンズの回想では米国人将校は骨と皮という悲惨な姿で 90 パーセントが赤痢。身体の内側に寄生虫、外側にシラミがたかっていたという。これ以降、善通寺は将校のための収容所となっていく。(1942 年 12 月末から 45 年 6 月 22 日の間に将校は 479 名増加、下士官以下・非戦闘員は 70 名減少する)

3.2 二月

1 日、米軍中尉が急性腸炎等のため死亡。12 日、米軍大佐が同様の原因で死亡。(終戦までの善通寺収容所の死者は計 10 名。国籍は米 7、英 2、豪 1)

3.3 三月

参謀本部の恒石少佐が日本放送協会に要請した謀略ラジオ番組「ゼロ・アワー」がスタート。前年南方の収容所から東京へ護送させたカズンスら捕虜 3 名や二世を使い、南太平洋の連合軍に向けた放送は多くの米兵を魅了。(この成功により、この年の夏には米本土に向けた番組が企画され、善通寺収容所からも捕虜が東京に送られる)

3.4 六月

28 日、佗美少将の収容所長兼職が免ぜられ善通寺師団司令部付杉山香也大佐が 3 代目所長となる。駅前の公園(現在の市役所所在地)で捕虜将校がゴボウなど野菜作りに従事。

3.5 七月

14 日、福岡捕虜収容所傘下の 3 分所(広島県向島・因島、愛媛県新居浜)が善通寺収容所へ移管される。

3.6 九月

10 日、鳥取地震が善通寺でも感じられ、経験のない捕虜が驚く。13 日、10 代の女性職員 2 名が配属される。

3.7 十月

19 日、読売新聞が善通寺師団による営外での禁酒措置を報道。面会の服装も制限され酒の携行は許可せず。(21 日、神宮外苑競技場で出陣する学徒壮行大会举行)

28 日、捕虜の演芸会で活発に活動していたウィリアムズとヘンショーが、捕虜放送の要員候補として東京に移送される。(参謀本部から放送を委託された池田徳眞の面接を受けていた 11 月 21 日、ウィリアムズが戦前駐在していた太平洋のマキン島に米軍が上陸) 善通寺からは米陸軍のカルフライシュ (1917-90) 中尉も候補となる。

3.8 十二月

1 日、善通寺からの 3 名を含む 14 名が最終選抜され、大森収容所からトラックで駿河台の文化学院 (休校中の施設を参謀本部が借上げ、駿河台分室と呼ぶ) へ移送される。仏印出張中の恒石参謀に代わり、小岩井光夫 (1910-59) 少佐が捕虜に日本軍への協力を厳命、協力を拒めば生命は保証しないと参謀総長名で伝達。(偽命令) 2 日、捕虜を使った対米謀略番組「日の丸アワー」がスタート。10 日、帰国した恒石参謀が駿河台分室来訪。日本放送協会で捕虜放送を視察。午後捕虜を駿河台分室中庭に整列させて演説、最後に改めて協力意思を確認したところウィリアムズが拒否。(東京憲兵隊本部に連行される。将校待遇は剥奪され、長野県・満島のダム工事現場の収容所で終戦まで重労働) 14 日、外務省三等書記官の善通寺視察が決まる。17 日、英空軍クック (1911-89) 中尉ら 5 名の将校を善通寺第 1 分所 (広島県因島) から善通寺に移送。



図 13 文化学院 (駿河台分室) 入口
2018 年ころ編者撮影

4. 1944 年

4.1 三月

1 日、捕虜将校は開墾に従事すべしと所長名での文書命令。曲折を経て捕虜先任将校委員会は応諾。食糧事情がさらに悪化するとの収容所側の説得に応じたもの。日本軍将校も開墾に参加。

4.2 四月

国際赤十字のペスタロッチ（1910-？）代表が視察。（パラヴィチーニ（1874-1944）前代表はこの年の 1 月 29 日逝去）

4.3 五月

1 日、第 3 分所（愛媛県新居浜磯浦）の山根分宿所開設。（45 年 5 月 19 日の閉鎖までの死者 12 名）

4.4 七月

18 日、東条内閣総辞職。このころ収容所当局は捕虜に購読させていた日本の英字紙 2 紙の配布を停止。しかしゴードンは密かにニュースを知る組織を作り上げていたという。（作業に出る捕虜が新聞を持ち帰り、日本語のできる将校が英訳して回覧）21 日、グアム島に米軍が上陸。戦闘は 3 週間続き、在満州の 11 師団から抽出派遣された部隊が玉砕。

4.5 十一月

22 日、杉山大佐と同じ陸士 26 期の近藤玉衛（?-1949）大佐の所長就任発令。クック中尉は近藤を、「自己の存在主張に極めて熱心」な人物と評す。

4.6 十二月

12 日、オックスブリッジ大学卒業生（14 名?）のパーティー開催。ケンブリッジ大学建築学部卒の朝吹四郎（1915-88）通訳が招待される。パーティーを企画したクックがケーキを準備していた 7 日に昭和東南海地震が発生、かき混ぜていたチョコレート・ソースをひっくり返す。年末右足を切断した米空軍飛行士が到着。タラワ島にいた彼の話でジョーンズは、戦前一緒に沿岸監視員に志願した郵便局の友人たちが日本軍に殺害されていたことを知る。

5. 1945 年

5.1 一月

3 日、B29 が神戸を初空襲。善通寺まで重苦しい騒音が聞こえ、窓ガラスがガタガタと震える。善通寺が攻撃されることはなかったが、本土空襲の本格化で頭上には通過する B29 の爆音が響き、空は飛行機雲でいっぱいになる。14 日、伊勢神宮が爆撃されたという理由で、新任の近藤所長は演芸や講習を中止させた。さらに捕虜のアルミ製食器を供出させ瀬戸物を支給。

5.2 二月

16 日、読売新聞は「善通寺師団・松根油採取に大戦果」と報じている。

5.3 四月

1 日、米軍が沖縄本島に上陸。四国に派遣された瀬島龍三（1911-2007）参謀は高知県を九州とともに有力な連合軍上陸予想地点と上申。8 日、第 55 軍が高知市で編成された。善通寺は後方兵站基地と位置付けられる。13 日、広島捕虜収容所が善通寺収容所内に仮設置される。所長は近藤玉衛大佐。善通寺収容所はその第 1 分所となり、分所長は開設以来収容所専任の細谷雄平大尉。（現在の福山市に開設された広島収容所本部へ近藤大佐は 5 月末、細谷大尉は 6 月末赴任）

5.4 六月

捕虜将校全員の移送開始。23 日米 335 名が福井県、24 日英 106 名が長野県、25 日英 40 名が福岡県、同日豪各 45 名の組が北海道と秋田県、同日蘭 40 名が岐阜県へ出発。善通寺に残った下士官以下 109 名は従来通り高松・坂出・丸亀駅の荷役に従事。

5.5 七月

4 日、午前 3 時前から B29 約 116 機が高松空襲。市街地の約 80 パーセントが焦土と化し、1,359 人死亡。4 日後復旧作業のため高松駅に着いたジョーンズは、駅舎以外ほとんど焼野原であることに驚く。家族や親戚に死亡者が出た衛兵の、捕虜に対する扱いは目に見えて邪険になった。参謀本部で宣伝業務を担当していた恒石重嗣中佐が、この月 55 軍兵站参謀として郷里の高知に着任。

5.6 八月

6日、広島に原子爆弾投下。2日後ジョーンズは日本人の班長から1発の爆弾で約10万人が死んだと聞かされ、一瞬耳を疑う。12日、米戦闘機の編隊が坂出港を銃撃。同日のことか不明だが坂出港で荷役作業をしていたジョーンズは内陸から低空飛行で現れた米軍機に突然銃撃され、日本兵が対空機関砲で応戦。15日9時ころ、収容所経理室に勤務していた軍属は、師団司令部から敗戦の知らせを聞く。いつものように7時に出かけたジョーンズは、11時仕事を中止し駅の外の道路に整列せよと命令された。日本人と同じく捕虜もお辞儀して膝を落とし、拡声器から流れる玉音放送を聴く。放送の後食事をする小屋に入れられ1時間後列車に寄せられた。収容所に着くと全員伏せの姿勢を命令された。頭上を一日中飛行機が飛ばないことに気が付き、日本が降伏し間もなく救助されると確信する。収容所の衛兵は4名だけになる。16日、捕虜は衛兵から小銃を取り上げて門を閉め、知らない日本人は一切中に入れない。25日以降B29による食料・衣料・薬品の投下開始。数年にわたる飢餓のあと腹いっぱい食べた捕虜は、正にマナ（旧約聖書の神がモーゼの祈りに応じ空から降らせた食物）だと感じた。B29は4日ごとに8機が飛来。やがて捕虜は食料やタバコをもって住民との接触を始める。寺院近くの商店でB29が投下してくれない物資―酒―と物々交換。

5.7 九月

2日、東京湾上の米戦艦ミズーリで日本代表が降伏文書に調印。同日、善通寺収容所で米陸軍大尉が捕虜109名を受領。帰国を待つ間に捕虜が善通寺から1駅南の金比羅宮まで出かけた写真が残る。8日にもB29が補給品を投下。11日、米第5艦隊が和歌山駅南西の和歌浦に入港、14、15両日四国・広島・山口の捕虜2,575名を収容。善通寺では8名の米軍救出隊が2日間にわたる出発を支援した。善通寺に最初に収容され最後にそこを離れたジョーンズは米国人医師による診察を受けた後、病院船で沖縄に向かう。そしてマニラとシドニーを経由し、翌月25日ニュージーランドに帰った。



図14 終戦直後の善通寺収容所
提供：ジョーンズ



図15 補給物資を待つ捕虜(九州小倉付近)
出典：奥住喜重ほか『捕虜収容所補給作戦』
巻頭写真 No. 3

捕虜の帰国が完了すると、米軍は捕虜を虐待した日本人の追及を開始する。最初は捕虜が死亡した事案を集中的に調査。20日、ヘンショーの情報を基に米諜報将校が参謀本部に来る。駿河台分室で放送協力を拒否して殺害されたというウィリアムズとカルプフライシュの消息を尋ね、両名の無事が確認されると27日に駿河台分室へ。

5.8 十月

27日、米軍大尉ら7名が善通寺収容所を訪問、収容中の病人や死者数を尋ねる。

5.9 十一月

捕虜帰国後も収容所職員50名が11月まで残務処理に当たった。

5.10 十二月

17日、米陸軍第8軍の軍事委員会が、横浜地方裁判所陪審法廷で米軍捕虜虐待容疑者に対するBC級裁判開廷。善通寺収容所関係では細谷雄平分所長を含む7名が、46、47年に有罪判決を受け服役。

6. 1946 年以降

捕虜収容所は消えたが、善通寺を縁とした人々の関係は国境と世代を越え戦後も続く。

6.1 元捕虜の交流

戦後ロンドンでは善通寺収容所にいた人々（Zentsujians）の集いが毎年開催された。米国でも同様に、1979 年のカンザス州など開催地を毎年変えて実施され、ジョージアもニュージーランドから参加したことがある。

6.2 和解

1950 年に元英艦長ゴードンが書いた手紙が、善通寺市立図書館の「細谷雄平氏資料」の中に残っている。刑期を終えた細谷元分所長が、裁判で自分を庇う証言をしてくれたお礼の手紙への返信。53 年、対米謀略放送に従事し戦後反逆罪に問われた米軍曹の裁判証人としてニューヨークを訪れた池田徳眞は、証人室で当時放送に従事した捕虜たちと再会。ウィリアムズとは夕食を共にしながら駿河台分室から連れ出された後の話を聞き、英国政府から勲章を授けられたお祝いの乾杯をした。同年元捕虜のホール（1902-89）米陸軍大佐が細谷に送った礼状も「細谷雄平氏資料」にある。69 年元英空軍中尉で戦後英下院議員を務めたクックは妻と善通寺を再訪、かつて収容棟だった高等学校校舎内を感慨に耽りながら歩いた。73 年、カトリック四国教区長田中英吉はメルボルンでターナー元従軍牧師と再会。大学教授になっていたターナーは、戦時中の細谷分所長の親切に対する謝意を何度も口にした。81 年、マサチューセッツ工科大学副総長ゴールドブリス（1919-2001）が善通寺を訪問して細谷らと再会。その模様を NHK 高松が 30 分番組として放送した。番組の中で細谷は、捕虜を公正に扱ったと自負していたので有罪判決を受けた時「そんなはずはないだろう」と不満だったが、「捕虜は苦しい生活を送ったから監督していたお前も同じ経験を試してみろということか」と自分を納得させたと言っている。翌年彼は戦犯告訴文書（英文）を香川県立図書館に寄贈した。86 年、豪従軍牧師だったメイ（1914-2010）は東京で朝吹四郎元通訳と再会、朝吹夫人を交え夕食を共にした。89 年、クリーバー（1917-2007）元米海兵隊中尉は広島で開催された IPPNW（核戦争防止国際医師会議）に参加後、妻と善通寺を訪問。当時のアルバムを持参した元職員多田昌子（1926-2008）と再会した。彼は開戦時ウェーク島でパイロットとして日本軍上陸部隊に激しく抵抗した後捕虜になり、善通寺ではウサギ飼育の班長。収容所から赤十字を通じてハーバード大学に願書を出し、戦後医師になった。2004 年、米大学に協力し 2 時間余り戦時中の回想を録音

した元米海兵隊員ロスランスキー（1922-2016）は、2013年に妻と善通寺を訪問、POW研究会の会員2名がアテンドした。

6.3 ジョーンズ

彼は、善通寺で知り合った人々と交流を続けた。ニュージーランドに帰国した1945年末、英海軍のゴードン元艦長に手紙を書いた。カナダに住む息子を毎年訪ねる際はハワイのヘンショー邸で過ごすのが通例だった。ヘンショーは戦後テレビ界入りし、舞台芸術部門でエミー賞に2度ノミネートされている。またジョーンズは1988年に自分の戦争・捕虜体験をテープに録音してマスコミなどに配布。（善通寺市立図書館も所蔵）



戦前彼と一緒に沿岸監視員に志願し、戦時中日本軍にタラワで殺害された郵便局の同僚たちの顕彰運動を続けた。2012年に努力は実を結び、ニュージーランド郵便は沿岸監視員らの記念碑建立を発表。首都ウェリントンで沿岸監視員を称える式典が開催され、翌日ジョーンズはキー（1961 - ）首相を表敬訪問した。

図16 キー首相（左）とジョーンズ
提供：Peter McQuarrie

6.4 子女

2011年、メイ（1914-2010）豪従軍牧師の娘マリアン（1949-）が善通寺市立西中学校を訪問。17年、バークハート（1914-72）元米陸軍中尉の娘キャロライン（1947-）も同中学校を訪問、善通寺市立図書館に収容所関連資料3点を寄贈している。20年、英ウィリアムズ（1918-94）の次女キャロライン（1949-）が夫・娘と善通寺を訪問する予定だったが、新型コロナのため延期となっている。

「善通寺^{ふりよ}俘虜収容所」ハンドブック

太平洋戦争初の捕虜収容所と人々の記録



【写真出典：アジア歴史資料センター.Ref.A06031081300】

名倉有一編

「善通寺^{ふりよ}俘虜収容所」ハンドブック

凡 例

○引用文

- ・表記を新字体、現代かなづかいに改め、ふりがなを追加・省略したことがある。
- ・文中の注は原則として省略した。

○捕虜

- ・原則として「俘虜」の代りに「捕虜」の語を使用。
- ・終戦後日本を離れるまでは「元捕虜」ではなく、原則として「捕虜」とした。

○年号：原則西暦。

○略号

略 号	意 味
「吉田文書」 (または「吉」)	陸軍主計 ¹ 中尉吉田茂集録. 善通寺俘虜収容所 情報綴. 1942, 善通寺市立図書館所蔵 (寄託資料) (例)「吉 G-7 」とは、同資料 G ファイルの 7 ページ。
「善」	「善通寺俘虜収容所」資料：新聞記事ほか. 2019, 善通寺市立図書館所蔵 (例)「善 9-155」とは、同資料 9 番目の項目 155 ページ。
「J」／ジョーンズ	善通寺俘虜収容所に最初に到着し、終戦の翌月帰国するまで抑留されたニュージーランド人、John M. Jones。 (例)「J.1995-01-01」 とは同氏から編者への同日付手紙。
「W」／ウィリアムズ	善通寺俘虜収容所に最初に到着し、43 年秋東京の大森収容所へ移送された英国人、Charles F. Williams。(例) 「W.1991-04-06」 とは同氏から編者への同日付手紙。
ピーター	ジョーンズの友人の歴史学者 Peter McQuarrie。
[]	引用文中の編者注
□	〃 判読できない個所

○使用辞書：広辞苑第六版 VERSION 4.3.4, 研究社新英和 (第 7 版) 中辞典 4.2.5.

○翻訳者：明記されていない場合は、原則として名倉有一／名倉和子訳。

○敬称略。

以上

¹ 第 2 部補足資料「1. 主計」

目 次

凡 例 — 003

目 次 — 004

図 1 善通寺収容所があった場所 — 009

〃 2 〃 の周辺図 — 010

〃 3 〃 のイラスト — 011

〃 4 〃 将校用捕虜棟 — 012

〃 5 〃 下士官兵用捕虜棟

第1部 本 文（日付順）—013

概 要 — 015

1. 1941（昭和 16）年—017

1.1 十二月 017

捕虜収容所設置／臨時編成要領／クリスマス／俘虜情報局／倉庫／経理部長

2. 1942（昭和 17）年—029

2.1 一月 029

給与方針／創立委員／被服の準備／設置命令／開設／工事／例外的／捕虜収容（※）／一夜明けて／入浴／買出し／不寝番／成規類聚^{せいきるいじゅう}／編成完結／日課／体操／日本ニュースの撮影／郵便局／洗濯／見物人／子供たちの見た捕虜／捕虜の生活／抑留者神戸へ／税関検査／録音／ウェーク島からの捕虜／座談会／日本赤十字社／会議

2.2 二月 080

健康管理／寄贈／引率外出／外貨の両替／オーストラリア飛行艇搭乗員／スイス公使館員／俘虜情報局長官／祝賀会／マレー半島からの捕虜／郵便貯金^{おおさやま}／大麻山／給与支給／多国籍

2.3 三月 107

看護婦／所内作業／看護婦ら神戸へ／赤十字国際委員会／優遇／俘虜管理部

2.4 四月 116

歯科機械^{しゅほ}／酒保／海軍「大船収容所」／講習会／米爆撃機搭乗員／ドーリットル空襲／スイス公使館員再訪／「写真週報」

2.5 五月 133

白人捕虜の処理方針／米国大使館に護送／スウェーデン公使館員／大学人の調査／東条首相

2.6 六月 142

大阪派遣／日米交換船／外務省

2.7 七月 149

捕虜監禁／オーストラリア人捕虜／書類上の捕虜

2.8 八月 158

所長交代／カトリック／国内収容所増設／高松駅／台湾移管／手紙

2.9 九月 164

川崎市へ分遣／民間人との接触／英海軍艦長

2.10 十月 168

きゅうじゅつひん
救恤品

2.11 十一月 170

謀略用写真／開墾地／九州派遣

2.12 十二月 173

さかいで
坂出駅／月報／演芸会／収容者数

3. 1943（昭和 18）年—179

3.1 一月 179

到着と出発

3.2 二月 181

最初の死亡者／米国赤十字社

3.3 三月 183

捕虜放送

3.4 六月 184

三代目所長／園芸

3.5 七月 186

分所

3.6 九月 188

地震／女性職員

3.7 十月 191

飲酒禁止／東京へ護送／東京俘虜収容所

3.8 十二月 196

文化学院／拒否事件／外務省書記官／分所から善通寺へ

4. 1944（昭和 19）年—203

4.1 三月 203

作業命令

4.2 四月 204

国際赤十字代表

4.3 五月 206

山根分宿所

4.4 七月 207

東条内閣総辞職／グアム島陥落

4.5 十一月 209

四代目所長

4.6 十二月 210

パーティー／友人の死

5. 1945（昭和 20）年—213

5.1 一月 213

空襲

5.2 二月 215

しょうこんゆ
松根油

5.3 四月 216

四国防衛軍／広島収容所に移管

5.4 六月 218

捕虜将校の移動／B29 の墜落

5.5 七月 223

高松空襲／へいたん兵站担当参謀

5.6 八月 226

原子爆弾／さかいで坂出港／終戦／収容所占拠／物資投下／交流

5.7 九月 234

引渡し／物資投下／帰国／戦犯追及（東京）

5.8 十月 242

戦犯追及（善通寺）

5.9 十一月 243

残務処理

5.10 十二月 244

BC 級戦犯裁判／善通寺収容所の被告／分所長有罪

6. 善通寺収容所の縁—249

6.1 元捕虜の交流 249

英国／米国／ジョーンズと友人たち

6.2 和解 253

英国人ゴードン／池田^{のりざね}徳眞／米国人ホール／英国人クック／田中英吉司教／
米国人ロジャース／米海軍の元将校／米国人ゴールドブリス／オーストラリア
人メイ／米国人クリーバー／米国人ロスランスキー

6.3 捕虜体験を語る 270

英国人ウィリアムズ／米国人ヘンショー／ニュージーランド人ジョーンズ

6.4 子女の来訪 273

オーストラリア人メイ／米国人バークハート／英国人タイナー

※「2.1.8 捕虜収容」内訳

No.	表 題	ページ
1	到着準備	40
2	高松港	41
3	護送の海軍少尉	42
4	善通寺到着	43
5	多度津港	45
6	上陸	46
7	参謀長とグアム総督	48
8	出発	50
9	到着	51
10	部屋割り	52
11	大見屋旅館	53

第2部 補足資料

No.	表 題	ページ
1	主計	279
2	善通寺師団	280
3	収容所関係者	284
4	初の収容者内訳	285
5	食事	286
6	日本円	291
7	風呂	293
8	諸規定	294
9	通信	298
10	麻酔なしの手術	299
11	捕虜の外出	302
12	優遇	304
13	俘虜管理部の設置	305
14	所長の要望	306
15	米海軍看護婦の回想	307

16	尋問	309
17	捕虜教育	310
18	捕虜からの技術導入（第一次世界大戦）	311
19	首相来訪	312
20	「戦陣訓」	319
21	宣誓：海外収容所の例	322
22	報告書	324
23	収容者数の増減	326
24	死亡者	329
25	分所・派遣所	335
26	捕虜将校の移動	336
27	さかいで 坂出駅の捕虜	339
28	捕虜虐待	341
29	予備役	346
30	捕虜収容所の比較：日本とドイツ	347

収容所の基本データ—349

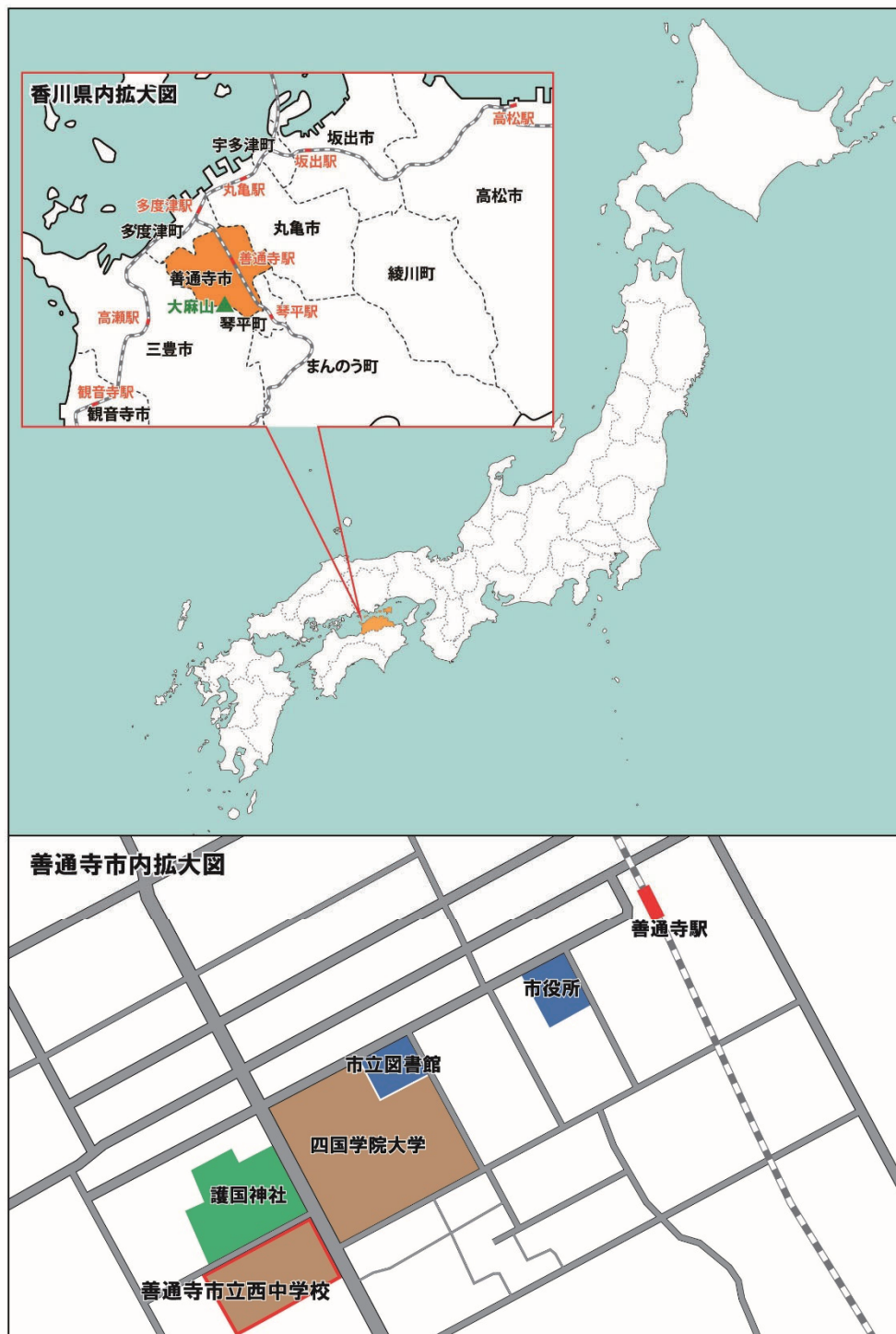
主な参考資料—351

収録図一覧—355

あとがき—364

索引—365

Table of Contents—381

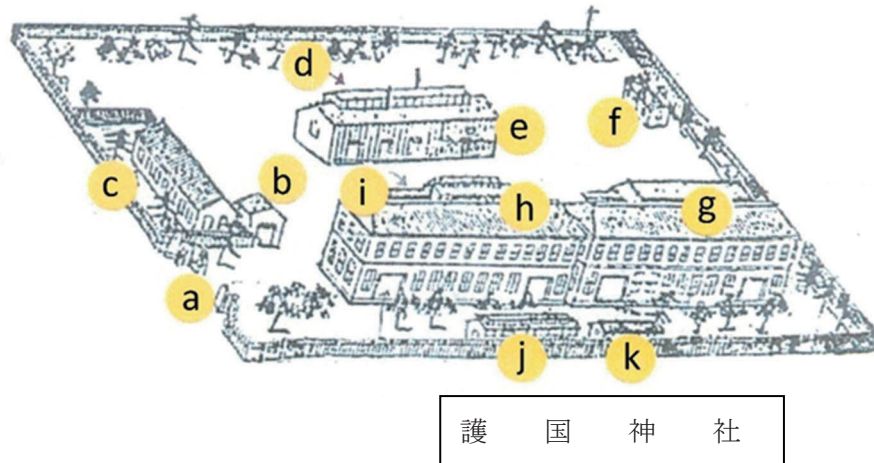


©2020 しゅうきち D

図 1 善通寺收容所があった場所
(現在善通寺市立西中学校がある、左下の赤枠の部分)



図 2 善通寺収容所の周辺図
 右上の青枠の部分は収容所と善通寺駅間の部分図
 出典：吉D-21.



a	正門
b	衛兵所・面会所
c	軍直轄製パン工場
d	炊事場
e	浴場
f	飼育場
g	1号棟 (1階は本部事務所)
h	2号棟
i	洗面所・便所・物干所
j	縫製作業場
k	営倉

図 3 善通寺収容所のイラスト

出典：茶園義男編. 大東亜戦争俘虜関係外交文書集成 第1巻.
不二出版, 1993, p. 339／善 9-84.



図 4 将校用捕虜棟 (1号棟)

出典：善通寺市立図書館蔵. Caroline Burkhart 編.
Zentsuji POW Camp, Shikoku.



図 5 下士官兵用捕虜棟 (2号棟)

出典：善通寺市立図書館蔵. Caroline Burkhart 編.
Zentsuji POW Camp, Shikoku.

第1部 本文（日付順）



図 6 善通寺師団司令部
(現陸上自衛隊善通寺駐屯地資料館)
出典：Wikimedia Commons
File: Nogi-kan Zentsuji Kagawa Pref01s5.jpg

概 要

太平洋戦争初²の捕虜収容所が、1942 年 1 月 14 日³香川県善通寺師団⁴の一角に開設された。現在その跡地には、善通寺市立西中学校が建っている。

翌 15 日の午後、横浜で抑留されていた 9 名 — ニュージーランド人 7、英・米国人各 1 — の捕虜が善通寺駅に到着、収容された。一方グアム島から客船で輸送された 480 名は悪天候のため多度津港上陸が遅れ、善通寺収容所に着くのは夜になった。乳飲み子を抱いた米兵の妻とスペイン人宣教師 2 名は、善通寺駅前の大見家旅館に収容された。翌日彼らは 8 時過ぎに起き、捕虜の当番が収容所支給の食材を調理して朝食兼昼食を済ませ、午後 2 時から水原所長の訓示を聞く。収容所は 18 日から火災予防ため捕虜に不寝番を担当させ、起床から消灯までの日課表を示して規律の確立に努める。新聞社は記者を派遣し、捕虜の生活 — 朝の体操、入浴、買出し、洗濯など — を追った。大勢の住民が収容所北側の護国神社から捕虜を見物。22 日、大見家の母子を含む非戦闘員 134 名は善通寺を出発、多度津港から神戸の抑留所へ。25 日には日本放送協会の係員が来所、海外に放送する捕虜の声を翌日から 4 日間かけて録音。29 日には第 2 陣としてウェーク島の捕虜 13 名が、さらにマレー半島やラバウルなど南方各地の戦場で捕獲された様々な国籍の捕虜が続々と収容される。

2 月 17 日、東京のスイス公使館員が米国大使館から委託された品を持参し米国海軍のマクミラン大佐と面談。翌 18 日、俘虜情報局^{うえむら}上村長官が視察。27 日からは、収容所の 3 キロほど南にある大麻山^{おおさやま}の開墾に捕虜の下士官兵が加わった。捕虜に関する規定は第一次大戦時以来改訂されておらず、実情に合わない点が出る。俘虜情報局が収容所の求めに応じて外務省に照会し作成した日米両軍の階級比較表を基にして、28 日国際条約に基づき捕虜将校へ給与が支払われた。

グアム海軍病院の看護婦 5 名が神戸へ去った 3 月 12 日、赤十字国際委員会代表が視察のため来訪。収容所は 25 日付の報告書の中で、先月のスイス公使館員来所時の報告で使われた「優遇」の文字に対する俘虜情報局の非難に激しく反論。

4 月 2 日、所内^{しゅほ}に酒保（売店）開設。6 日、海軍は陸軍の善通寺収容所に捕虜を引き渡す前の尋問を目的として、神奈川県大船に仮収容所を開設。10 日、労働をしない捕虜将校のための講習会計画が作成される。18 日、収容所で防火演習実施中、米軍機が初の日本本土空襲。

² 本書 p.35.図 18, p.61.図 48／名倉有一編。横浜・山手 250 番館：1942 年 1 月、マキン島から来た捕虜たちの記録。私家版, 2014, p.176～177.

³ 同上.

⁴ 第 2 部補足資料「2. 善通寺師団」

5月30日、東条英機首相が善通寺師団を訪れ水原所長から状況報告を受ける。

6月8日、大阪での軍需滞貨処理のため151名の捕虜が収容所を出発。17日、横浜港から第一次日米交換船が出港。乗客の中には1月15日善通寺に到着した母子、看護婦ら8名がいた。

7月18日、収容所は逃亡しない宣誓書への署名を拒否した39名を一室に監禁。30日、オーストラリア陸軍カズンス少佐の書類が収容所に届き、本人は東京の日本放送協会で国際ラジオ放送に従事する。

8月1日新所長の発令。15日、企画院主催の会議で労務および特殊重要業務に従事させる捕虜の内地移送が決まり、9月23日の大阪・神戸に続き川崎・品川・横浜に収容所が増設される。8月22日から香川県の高松駅で善通寺収容所捕虜による荷役作業開始。24日、マクミラン大佐が台湾収容所へ移管された。

11月、南方から門司へ到着した捕虜の赤痢患者が多発、27日善通寺から医師10名を含む40名の派遣が指示される。12月には高松駅に加え坂出駅でも荷役開始。日曜日の夕食後風呂場の脱衣場で行われる捕虜の演芸会はますます盛んになり、クリスマスパーティーが開催される。

43年1月19日、150名の捕虜将校が到着し、50名の下士官兵が大阪へ出発。2月1日初の死亡者。終戦までに計10名が亡くなる。3月ころ参謀本部の恒石少佐は前述のカズンス少佐ら捕虜を使い、東京の日本放送協会スタジオからガダルカナル方面の連合軍向け謀略放送を開始。7月14日、福岡収容所から広島愛媛両県の3分所が移管される。9月13日、女子職員2名配属。恒石少佐は前述の謀略放送に加え、米本土に向けた捕虜放送を準備。10月28日、候補の捕虜2名が東京へ出発。12月10日、そのひとりであるウィリアムズが恒石少佐の協力要請を命がけで拒否、長野県のダム工事現場へ送られる。17日、戦後英国の国会議員になる捕虜クックが善通寺に到着。

44年7月18日、東条内閣総辞職。

45年4月13日、善通寺収容所は広島収容所の第一分所となる。6月23日～25日、捕虜将校611名全員が日本各地の収容所へ出発。残された准尉2名を含む計109名は引続き高松・坂出での荷役に従事。7月4日、高松がB29の爆撃を受ける。8月15日終戦。翌日捕虜は日本側から小銃を奪って門を閉じ、顔を知らない日本人の入所を拒む。B29による空からの物資投下が始まり、9月2日、東京湾の米戦艦ミズーリ上で降伏調印式。同日善通寺の捕虜は米オルセン大尉に引き渡され、14、15日列車で和歌山県に向い帰国の途につく。収容所の50名の職員は11月まで勤務し、残務整理に当たっている。12月横浜でBC級戦犯裁判開始。捕虜虐待の罪で善通寺収容所関連で7名が有罪とされた。

善通寺収容所の縁で戦後元捕虜の国境を越えた交流が始まり、善通寺を訪問。現在も関係者の来訪が続く。

収容所の基本データ

1. 開設日：1942 年 1 月 14 日⁸⁷⁷
2. 所在地：香川県仲多度郡善通寺町（現在の善通寺市）大字先野字宇條⁸⁷⁸
3. 名 称
 - （1）開設時：善通寺俘虜収容所⁸⁷⁹
 - （2）45 年 4 月 13 日：広島俘虜収容所第 1 分所⁸⁸⁰
4. 特 徴
 - （1）太平洋戦争初⁸⁸¹
 - （2）捕虜将校の比率が高い（45 年 6 月将校全員が移動する直前；84.9%）⁸⁸²
 - （3）国際赤十字国際委員会⁸⁸³や外国の公使館・領事館⁸⁸⁴からの視察

5. 歴代所長・分所長（図 318）

代	氏名・就任時階級	着任年月 ⁸⁸⁵		出 身	備考	本 書
1	水原義重少将	1942	1	愛媛県	陸士 20 期	p.35, 36
2	^{たくみ} 佗美 浩 //	〃	9	〃	〃 24 期	p.158
3	杉山香也大佐	43	7	徳島県	〃 26 期	p.184
4	^{たまえ} 近藤玉衛 //	44	11	長崎県	〃 26 期	p.209
5	^{ほそたに} 細谷雄平大尉	45	4	香川県	分所長	p.36, 247

⁸⁷⁷ 本書（以下同じ）p.35.図 18, p.61.図 48.

⁸⁷⁸ p.35.図 18.

⁸⁷⁹ 同上.

⁸⁸⁰ p.217.脚注 574.

⁸⁸¹ p.15.脚注 2.

⁸⁸² p.219.

⁸⁸³ Op.112～113, 182, 204～205.

○福岡第一収容所のように視察を断る例もあった：「所長はそれに付け加えて「実は先頃、スイス公使館から、赤十字国際委員会の人が俘虜の待遇を視察に九州にくる時に、この第一収容所も視察したいという希望があったのですが、彼らに見せるにはあまりにひどいので、ここは機密の仕事をしているから見せるわけにいかないと断ったのです。」」。

『日の丸アワー』p.126]

⁸⁸⁴ 本書 p.89, 129, 137～138.

⁸⁸⁵ 『俘虜情報局・俘虜取扱の記録』p.244.

6. 収容人数

(1) 初日 (42 年 1 月 15 日) : 489 名⁸⁸⁶ (内 4 名は大見屋旅館へ収容⁸⁸⁷)

(2) ピーク : 800 名以上(?)⁸⁸⁸

(3) 米軍への引渡し (45 年 9 月 2 日) : 109 名⁸⁸⁹

7. 収容中の死亡者 : 10 名⁸⁹⁰

8. 最後の収容者出発日 : 45 年 9 月 14, 15 日⁸⁹¹

9. 閉 鎖 : 45 年 11 月⁸⁹²

⁸⁸⁶ 本書 (以下同じ) p.285.

⁸⁸⁷ p.53.

⁸⁸⁸ p.328.脚注 846.

⁸⁸⁹ p.234.

⁸⁹⁰ p.329～334.

⁸⁹¹ p.238.

⁸⁹² p.243.

主な参考資料

著 者	書 名	出版社	出版年
会田雄次	アーロン収容所：西欧ヒューマンイズムの限界	中央公論社	1962
池田徳眞	日の丸アワー：対米謀略放送物語	〃	1979
〃	プロパガンダ戦史	〃	1981
〃	恩寵と復活：徳川第15代将軍の孫 がつづる信仰の軌跡	キリスト新聞社	1993
〃 名倉有一・名倉和子訳	駿河台分室物語【本編】	私家版	2015
池田百合子	父、池田徳眞の思い出（DVD）	〃	2016
一ノ瀬俊也	東條英機：「独裁者」を演じた男	文芸春秋（デジタル版）	2020
井上坤	愛媛の将軍	高倉印刷	1975
岩波書店編集部編	近代日本総合年表 第三版	岩波書店	1991
氏家睦夫	多度津港史話	水脈の会	2011
内海愛子	日本軍の捕虜政策	青木書店	2005
内海愛子・永井均編・解説	東京裁判資料：俘虜情報局関係文書	現代史料出版	1999
大岡昇平	対談 歴史と文学と	文芸春秋	2015
大川四郎編訳	欧米人捕虜と赤十字活動：パラヴィチーニ 博士の復権	論創社	2006
奥住喜重, 工藤洋三, 福林徹	捕虜収容所補給作戦：B29部隊最後の作戦	（工藤洋三）	2004
小沢真人, NHK取材班	赤紙	創元社	1997
海外放送 研究グループ編	NHK戦時海外放送	原書房	1982
香川県高等学校教職員 組合平和教育 特別委員会編	戦跡を歩く 教室で平和を語ろう 5 善通寺	香川県高等学校教職員 組合平和教育特別委員会	1996
香川大学経済研究所編	細谷雄平教授年譜	香川大学経済学会 （経済論叢 第42巻第1・2号）	1969
加藤聖文	対日断交ドミノとスイスの選択	Voice. 2018年2月号	2018
上出雅孝	桑山仙蔵翁物語	淡交新社	1963
木村亮	福井県下の連合国軍捕虜および 捕虜収容所（敦賀・武生・大野）	福井県文書館 （研究紀要15）	2018
霧原一則編	善通寺俘虜収容所 記録写真	私家版	2007
フレッチャークック, ジョン. 江藤潔訳	天皇のお客さん	徳間書店	1971
工藤洋三	米軍の写真偵察と日本空襲：写真 偵察機が記録した日本本土と空襲被害	工藤洋三	2011
〃	日本の都市を焼き尽くせ！：都市焼夷 空襲はどう計画され、どう実行されたか	〃	2015

「善通寺俘虜収容所」ハンドブック

著 者	書 名	出版社	出版年
國重昭郎	昭和十九年夏の思い出	坂出文芸協会(海橋第28号)	2002
ゴードン, アーネスト, 斎藤和明訳	死の谷をすぎて: クワイ河収容所	新地書房	1981
小谷賢	日本軍とインテリジェンス: 成功と失敗の事例から	防衛研究所紀要11月	2008
小林皓志贈	善通寺捕虜に関する記録写真		2012
小林久子	猫のしっぽ	文芸社	2003
小宮まゆみ	敵国人抑留: 戦時下の外国民間人	吉川弘文館	2009
坂出市史編さん委員会編	坂出市史 年表	坂出市	1988
笹本妙子	連合軍捕虜の墓碑銘	草の根出版会	2004
実松譲	大船捕虜収容所始末記	別冊週刊読売9月号	1974
〃	日米情報戦	光人社	2009
四国新聞社	昭和50年史上巻: 香川・激動の20年	四国新聞社	1975
柴田武彦, 原勝洋	ドーリットル空襲秘録: 日米全調査	アリアドネ企画	2003
司馬遼太郎	歴史と視点	新潮社	1980
週刊朝日編	続・値段の明治大正昭和風俗史	朝日新聞社	1981
菅原完	知られざる太平洋戦争秘話	潮書房光人社	2015
杉浦克巳	艦砲射撃のもとで: 新居の戦争	ぺんぺん草庵	1997
善通寺市教育委員会 市史編さん室編	善通寺市史第三巻	善通寺市	1994
多川精一	戦争のグラフィズム: 『FRONT』を創った人々	平凡社	2000
多田善昭	善通寺俘虜収容所 本部庶務係員 多田昌子 (CD-ROM2枚)	私家版	—
立川京一	日本の捕虜取扱いの背景と方針	防衛省	2008
田中利幸	知られざる戦争犯罪: 日本軍は オーストラリア人に何をしたか	大月書店	1993
谷浦英夫	タラワ、マギンの戦い	草思社	2000
茶園義男編	大東亜戦争俘虜関係外交文書集成 第1巻	不二出版	1993
〃	大東亜戦下外地俘虜収容所	〃	1987
〃	日本のBC級戦犯資料	〃	1983
〃	俘虜情報局・俘虜取扱の記録	〃	1992
〃	本土決戦 内地防衛軍	〃	1986
恒石重嗣	大東亜戦争秘録 心理作戦の回想	東宣出版	1978
豆狸庵集録	善通寺俘虜収容所に於ける俘虜の全貌	私家版	—
外山操編	陸海軍将官人事総覧(陸軍編)	芙蓉書房	1981
内務省警保局編	外事月報 復刻版 第5巻: 昭和17年1月～4月	不二出版	1994
名倉有一編	谷山樹三郎元陸軍大尉の回想 (DVD)	私家版	2016
〃	池田徳眞氏の回想 (DVD)	〃	2016
〃	恒石重嗣元陸軍中佐の回想 (DVD)	〃	1996

主な参考資料

著 者	書 名	出版社	出版年
名倉有一編	元捕虜ジョーンズ氏の回想(DVD)	私家版	2021
〃	太平洋戦争初の捕虜収容所 善通寺の記録	〃	2012
〃	長野県・満島収容所: 捕虜生活と解放の記録	〃	2013
〃	横浜・山手250番館: 1942年1月、マキン島から来た捕虜たちの記録	〃	2014
〃	駿河台分室物語【資料編】	〃	2015
名倉有一集録	「善通寺俘虜収容所」資料: 新聞記事ほか	〃	2019
名倉有一	ジョーンズさんの戦争	浜松市民文芸第63集(浜松市)	2018
〃	善通寺俘虜収容所情報綴【DVD版】解説書第3版	私家版	2018
日外アソシエーツ編	20世紀日本人名辞典	日外アソシエーツ	2004
日本国有鉄道編	鉄道終戦処理史	大正出版	1981
日本赤十字社	太平洋戦争中の国際人道活動の記録	日本赤十字社	1993
ネルソン, ハンク タナカ, リック訳	日本軍捕虜収容所の日々: オーストラリア兵士たちの証言	筑摩書房	1995
秦賢助	将軍	忠文館	1942
浜渦哲雄	英国紳士の植民地統治: インド高等文官への道	中央公論社	1991
浜本純一	青雲白雲: 私の人生劇場	浜本事務所	1986
日置英剛編	年表 太平洋戦争全史	国書刊行会	2005
福島県編	福島県史 第20巻	福島県	1965
福原秀樹	日本陸軍将官辞典	芙蓉書房出版	2001
ブッシュ, ルイス 明石洋二訳	おかawaiiそうに: 東京捕虜収容所の英兵記録	文藝春秋新社	1956
防衛庁／防衛研修所	戦史叢書6: 中部太平洋陸軍 作戦1: マリアナ玉砕まで	朝雲新聞社	1967
〃	戦史叢書38: 中部太平洋方面海軍 作戦1: 昭和17年5月まで	〃	1970
細谷雄平	細谷雄平氏資料	私家版	—
本間正人	経理から見た日本陸軍	文芸春秋	2021
舞阪町史研究会編	喜佐志満第3号	舞阪町史研究会	1979
松本周滋編	香川における第2次大戦俘虜関連新聞記事 切り抜き集	私家版	2008
満濃町誌編さん委員会編	新修満濃町誌	満濃町役場	2005
三木充	讃岐の俘虜収容所: 明治37年～昭和20年	高松郵趣会	1979
溝上瑛	うどん: 香川県(新風土記4)	朝日新聞社	1975
恵隆之介	敵兵を救助せよ!: 駆逐艦「雷」工藤艦長と 海の武士道	草思社	2014
横浜市総務局市史 編集室編	横浜市長2 第1巻 下	横浜市	1996
吉田健正	沖縄戦 米兵は何を見たか	彩流社	1996
吉田裕	日本軍兵士: アジア・太平洋戦争の現実	中央公論新社	2017
〃	シリーズ日本近現代史⑥アジア・太平洋戦争	岩波書店	2007

「善通寺俘虜収容所」ハンドブック

著 者	書 名	出版社	出版年
吉田文夫	善通寺俘虜収容所 記録写真	私家版	—
陸軍主計中尉 吉田茂集録	善通寺俘虜収容所情報綴 (翻刻分A～Kファイル全4冊)	〃	1942
陸上自衛隊第13師団 司令部四国師団史 編さん委員会編	四国師団史	陸上自衛隊第13師団 司令部	1972
和歌山県警察史 編さん委員会編	和歌山県警察史 資料編	和歌山県警察本部	1995
	太平洋戦争関連写真・新聞	私家版	—
	婦人画報	東京：婦人画報社(1942年8月号)	1942
NHK高松	善通寺俘虜収容所(DVD)	(1981年12月10日放送)	1981
	大脱走(DVD)		1963
Brown, Joseph Rust	<i>We Stole to Live</i>	Missouri: Missouriian Litho and Printing Company	1982
Burkhart, Caroline	<i>Zentsuji POW Camp, Shikoku</i>	Private edition	—
Bush, Lewis	<i>Clutch of Circumstance</i>	Bungei Shunju Ltd.	1956
Emerson K.C	<i>Guest of the Emperor</i>	Private edition	1987
Fletcher-Cooke, John	<i>The Emperor's Guest</i>	Kindle	(2013)
Gordon, Captain O.	<i>Fight It Out</i>	London: William Kimber and Co.Limited	1957
Jones, John M. etc.	<i>Japan's First POW Camp in WWII: Zentsuji</i>	Private edition	2012
Leaming, Jack	<i>From 6-S-7</i>	〃	1998
McQuarrie, Peter	<i>Conflict in Kiribati: A History of the Second World War</i>	Christchurch: Macmillan Brown Centre for Pacific Studies, University of Canterbury	2000
Nelson, Hank	<i>Prisoners of War: Australians Under Nippon</i>	Crows Nest: ABC Enterrises	1990
	GHQ/ SCAP Records, RG331, Box9675		

収録図一覧

図	表 題	頁	イラスト	写真	表	新聞	その他
1	善通寺収容所があった場所	9	○				
2	善通寺収容所の周辺図	10	○				
3	善通寺収容所のイラスト	11	○				
4	将校用捕虜棟(1号棟)	12		○			
5	下士官兵用捕虜棟(2号棟)	〃		○			
6	善通寺師団司令部	14		○			
7	マキン、グアム島	19	○				
8	マキン島の主な捕虜	20		○			
9	マキン島	〃		○			
10	機雷敷設艦「津軽」	21		○			
11	グアム島	22	○				
12	堀井富太郎	24		○			
13	あるぜんちな丸	〃		○			
14	上村幹男	25		○		○	
15	「善通寺俘虜収容所二関スル経理概況書」	30					○
16	広島陸軍被服支廠	33		○			
17	収容所へ兵器を補給	34					○
18	善通寺収容所設置の官報	35					○
19	収容所長と主な所員	36		○	○		
20	捕虜到着	39				○	
21	吉田茂	40		○			
22	高松港栈橋の捕虜	41		○		○	
23	高松港経由の捕虜	〃			○		
24	進藤一	42		○			
25	有田和子	〃		○			
26	捕虜(2号棟1階)	43		○			
27	収容所に着いた捕虜	44		○		○	
28	多度津港の見物人	45		○		○	
29	戦前の多度津港	〃		○			
30	多度津港に上陸した米軍捕虜	46		○		○	
31	湯茶の接待をうける捕虜	47		○			
32	多度津港港務所前に整列した捕虜第1陣	〃		○			
33	依知川とマクミラン	48		○			
34	花菱旅館	50		○			
35	夜の収容所到着	51		○			

「善通寺俘虜収容所」ハンドブック

図	表 題	頁	イラスト	写真	表	新聞	その他
36	第1号棟のイラスト	52	○				
37	スペイン人宣教師	53				○	
38	米人母娘	54		○			
39	片原町旅館街・大見屋	54	○				
40	水原の訓示を聴く捕虜	55		○			
41	調理室(1)	56		○			
42	〃 (2)	〃		○			
43	〃 (3)	〃		○			
44	風呂	57		○			
45	捕虜の買出し	58		○			
46	護国神社に最敬礼	〃		○			
47	収容棟前の捕虜	59		○			
48	「編成完結ノ件」	61					○
49	「日課時限表」	62					○
50	早朝の体操	63		○			
51	収容所内を散歩	〃		○			
52	日用品支給の撮影	64		○			
53	地図を眺める捕虜	〃		○			
54	善通寺郵便局	65		○			
55	洗濯をする捕虜	66		○			
56	洗濯物を干す捕虜	〃		○			
57	新聞の切抜き	67		○		○	
58	善通寺の児童が見た捕虜	68				○	
59	捕虜の一日	69		○		○	
60	〃 (続き)	70		○		○	
61	別れを惜しむヘルマーズ一家	71		○			
62	翌朝バスに乗り込む抑留者	〃		○			
63	神戸税関本館(2代)	72		○			
64	マイクの前の捕虜	73		○			
65	列車の中のウェーク島捕虜	75		○			
66	広島屋旅館前を通過するウェーク島捕虜	〃		○			
67	フェリス(?)	76		○			
68	俘虜救恤委員部設置	77				○	
69	金武省三	78		○			
70	所内の記念撮影	79		○			
71	日本人と捕虜のスナップ	〃		○			
72	陸軍病院の病棟	80		○			
73	捕虜の健康診断	81		○			

収録図一覧

図	表 題	頁	イラスト	写真	表	新聞	その他
74	ピーナン	83		○			
75	高松百十四銀行善通寺支店	86		○			
76	「外国貨幣交換申込書」	〃					○
77	PBYカタリナ飛行艇	87		○			
78	重巡洋艦「青葉」	88		○			
79	トンプソン	〃		○			
80	メッツェラー	〃		○			
81	捕虜に出迎えられた上村	90		○		○	
82	旧善通寺偕行社	91		○			
83	上村幹男	92		○			
84	永見俊徳	〃		○			
85	英領マレー	93	○				
86	ルーエン	94		○			
87	ボーテカ	〃		○			
88	潜水艦乗組員捕虜の談話	95				○	
89	ブレニム双発爆撃機	96		○			
90	ボーデン	〃		○			
91	「貯金授受表」	97					○
92	大麻山	98		○			
93	出発	99		○			
94	大麻山の開墾作業	〃		○			
95	収容所へ戻る	〃		○			
96	捕虜作業開始の通知	100				○	
97	作業の賃銀	101			○		
98	日米陸軍海軍階級比較表	102					○
99	給与明細	103					○
100	病人・高齢者への支払い依頼	〃					○
101	ボーデンとウィリアムズ	105		○			
102	捕虜の米海軍看護婦	107		○			
103	縫装勤務	108		○			
104	グラハム社製セダン	109		○			
105	ニッサントラック80型	〃		○			
106	出発する米看護婦に訓示	110		○		○	
107	神戸に着いた米看護婦	111		○		○	
108	パラヴィチャーニ	113		○			
109	赤十字代表の視察報告	〃				○	
110	「俘虜労役二関スル参考(案)」	115					○
111	マッキニース	117		○			

「善通寺俘虜収容所」ハンドブック

図	表 題	頁	イラスト	写真	表	新聞	その他
112	歯科機械の見積書	117					○
113	開設された酒保	118		○			
114	酒保の位置	120	○				
115	講習会風景	124		○			
116	俘虜将校講習会「実施要領」	〃			○		
117	ピカチ島の無線基地	126					○
118	ピカチ島の村	〃					○
119	リーミングとヒルトン	127		○			
120	彼らの乗機：SBSドントレス	〃		○			
121	航空母艦ホーネットを発艦するB25	128		○			
122	「写真週報」218号	130		○			○
123	〃 (その2)	131		○			○
124	〃 (その3)	132		○			○
125	「俘虜処理要領」	133					○
126	グリフィス	135		○			
127	グリフィスの英語辞書	136		○			
128	〃 (見開き)	〃		○			
129	グリフィスの署名と検閲印	〃		○			
130	陸軍省の善通寺収容所訪問許可	138					○
131	居室の捕虜将校	139		○			
132	小菅と香川県庁へ向かう東条	141		○			
133	大阪：作業所・宿泊所付近	143	○				
134	大阪市立運動場に着いた捕虜	144		○			
135	大阪市立運動場	〃		○			
136	〃 プール	〃		○			
137	交換船で帰国した善通寺関係米国人	145			○		
138	浅間丸	146		○			
139	グリップスホルム	〃		○			
140	陸軍次官宛の外交記録	148					○
141	監禁者内訳	150			○		
142	監禁者の札	151					○
143	メッツェラー	152		○			
144	ジョン・メイ	153		○			
145	ラバウル	155	○				
146	ラバウルからの撤退	〃		○			
147	恒石重嗣	156		○			
148	カズンス	〃		○			
149	カズンスの東京護送命令	157					○

収録図一覧

図	表 題	頁	イラスト	写真	表	新聞	その他
150	オーストラリアに向け放送するカズンス	157				○	
151	佗美浩	158				○	
152	ヘンショー	159		○			
153	善通寺に続く国内収容所	160			○		
154	鉄道駅での捕虜の荷役	161		○		○	
155	マクミラン護送：出発の朝	162		○			
156	ニールセンの葉書	163					○
157	ニールセン（？）	〃		○			
158	ゴードン	166		○			
159	スラバヤ沖海戦の捕虜収容	〃				○	
160	沈没寸前の英重巡洋艦エクセター	167		○			○
161	赤十字小包（例）	169		○			
162	東方社：ロゴと社屋	170		○			○
163	大麻山での捕虜労役	171			○		
164	開墾地の捕虜作業	〃				○	
165	「月報提出ノ件報告」	175					○
166	クリスマスパーティー	176		○			
167	風呂場	177		○			
168	俘虜人員表（昭和十七年十一月三十日調）	178			○		
169	捕虜国籍別階級別人員表	178			○		
170	パークハート	180		○			
171	捕虜の到着と出発	〃				○	
172	ウインの墓碑	181		○			○
173	日本放送協会の海外放送に従事した捕虜	183		○			
174	杉山香也	184		○			
175	ウィリアムズとハドソン	185		○			
176	善通寺収容所に移管された3分所	186			○		
177	善通寺収容所の3分所	〃	○				
178	鳥取地震	188	○				
179	スカート姿の女性新職員	190		○			
180	写真裏面	〃		○			
181	経理室前の多田昌子と川添ヤス子	〃		○			
182	当時の戦況（1943年秋）	191			○		
183	ジョーンズの手帳	192					○
184	ウィリアムズ、ヘンショー、ブッシュ	193		○			
185	東京・大森収容所	194		○			
186	マキン、タラワに米軍上陸	195				○	
187	文化学院入口	197		○			

「善通寺俘虜収容所」ハンドブック

図	表 題	頁	イラスト	写真	表	新聞	その他
188	文化学院中庭	197		○			
189	カルプフライシュとバークハート	199		○			
190	出張予定表	200					○
191	アルバータツジ	202		○			
192	図書室	〃	○				
193	ペスタロッチ、アングスト両代表、島津忠承委員長	205		○			
194	ラインベリー	〃		○			
195	現在の新居浜市	206	○				
196	当時の戦況(1944年6月)	207			○		
197	グアム島での日米両軍の損害	208			○		
198	パーティー出席者の寄せ書き	210					○
199	ペティオ島の記念碑	211		○			
200	空襲後の神戸	213		○			
201	民生用の金属製品製造を制限	214				○	
202	太平洋戦争中の松根油採取跡	215		○			
203	瀬島龍三	216		○			
204	捕虜将校の出発	219			○		
205	満島	220		○			
206	収容所に掘られた壕	221		○			
207	米爆撃機B29	222		○			
208	高松空襲	223		○			
209	一夜の空襲で焼け野原となった高松市の市街地	224		○			
210	コルセア戦闘機	226		○			
211	坂出港	〃		○			
212	終戦直後の善通寺収容所	229		○			
213	〃 (その2)	〃		○			
214	東京・大森収容所	231		○			
215	補給物資を投下するB29	232		○			
216	捕虜物資を待つ捕虜	〃		○			
217	善通寺路上の捕虜	233		○			
218	善通寺収容所捕虜の引渡し	234					○
219	帰国を待つ捕虜	235		○			
220	金刀比羅宮	〃		○			
221	上空から見た善通寺収容所	236		○			
222	矢原高幸	237		○			
223	和歌山市の鉄道駅	238		○			
224	和歌山のジョーンズ	240		○			
225	軽巡洋艦ガンビア	〃		○			

収録図一覧

図	表 題	頁	イラスト	写真	表	新聞	その他
226	病院船サンクチュアリ	240		○			
227	大本営	241		○			
228	BC級戦犯裁判が行われた横浜地方裁判所	245		○			
229	桐蔭学園に移築復元された陪審法廷	〃		○			
230	善通寺収容所の被告	246			○		
231	ジョーンズと友人たち：戦後と交流	252		○	○		
232	ゴードンの手紙	253					○
233	ニューヨークの池田徳真と恒石重嗣	254		○			
234	再会の舞台となった裁判所	255		○			
235	都レストラン	〃		○			
236	捕虜時代のホール	257		○			
237	家族旅行中のホール	〃		○			
238	ホールの墓碑	〃		○			
239	上空から見た旧収容所周辺	259		○			
240	ターナー	261		○			
241	田中英吉	〃		○			
242	ロジャースの再会希望者	262			○		
243	ロジャース	〃		○			
244	善通寺収容所跡と写真裏面のメモ	263		○			○
245	ゴールドブリスと細谷雄平	265		○			
246	ゴールドブリスと通訳の名刺	〃		○			○
247	善通寺収容所時代の朝吹四郎通訳	266		○			
248	ジョン・メイ	〃		○			
249	クリーバー夫妻	267		○			
250	ウサギに餌をやる捕虜（クリーバー？）	268		○			
251	ロスランスキー	269		○			
252	捕虜体験を語るウィリアムズ	270		○			
253	ヘンショ―	271		○			
254	体験を語るジョーンズ	272		○			
255	体験を録音したテープ	〃		○			
256	善通寺市訪問時のマリアン・メイ	273		○			
257	善通寺市立図書館訪問時のバークハート	274		○			
258	バークハートの寄贈資料	〃					○
259	ウィリアムズの子供たち	275		○			
260	第55師団臨時編成報告	282					○
261	「第五十五師団臨時編成各部隊長職員表」	283					○
262	善通寺収容所関係者区分	284			○		
263	俘虜収容所職員及配属者一覧表	〃					○

「善通寺俘虜収容所」ハンドブック

図	表 題	頁	イラスト	写真	表	新聞	その他
264	捕虜・監禁者：四国到着港別	285			○		
265	捕虜：国籍・軍階級別	285			○		
266	監禁者：国籍・男女別	〃			○		
267	献立実施一覧表	286			○		
268	ギルバート諸島捕虜8名の年収	291			○		
269	根岸競馬場跡	292		○			
270	復元された「山手250番館」	〃		○			
271	「諸規定綴」	294					○
272	「経理概況書綴」	295					○
273	白露戦争当時の諸通牒	296					○
274	「俘虜二関スル法規」	〃					○
275	舞阪町史「喜佐志満」第3号	299					○
276	静岡県・浜名湖周辺図	301	○				
277	新聞見出しの「正遇」	304				○	
278	第一次大戦時の「俘虜取扱二関スル注意事項」	310					○
279	徳島収容所捕虜の製作品販売	311					○
280	「収容所要覧」	313					○
281	秘印のある旬報	〃					○
282	善通寺収容所の労務例	316			○		
283	香川県外への捕虜の派遣	〃			○		
284	外地、南方収容所の追加開設	317		○		○	
285	シンガポールとサンダカン	322	○				
286	(1) 報告書：旬報	324			○		
287	(2) 〃：月報	〃			○		
288	(3) 〃：その他	325			○		
289	善通寺収容所宛通牒など	〃			○		
290	1942年中の入出所	326			○		
291	1942年9月末の収容者数	327			○		
292	42年11月末の 〃	〃			○		
293	42年10月中の入出所推計	〃			○		
294	収容者数推移	328			○		
295	42年12月末から捕虜引渡しまでの入出所	〃			○		
296	死亡者の内訳	329			○		
297	〃 名簿	330			○		
298	No.3 Kellogg	331		○			
299	No.4 Schwass	〃		○			
300	No.6 Barrett	〃		○			
301	No.8 Sobey	〃		○			

収録図一覧

図	表 題	頁	イラスト	写真	表	新聞	その他
302	大八車で搬送される遺体	333		○			
303	埋葬	〃		○			
304	捕虜の墓石	334		○			
305	墓石正面	〃		○			
306	〃 側面	〃		○			
307	善通寺収容所の構成	335			○		
308	捕虜将校移動の詳細	336			○		
309	〃 に関するジョーンズの手紙	338					○
310	ゴードン	343		○			
311	ラインベリー	〃		○			
312	スキャンロン	343		○			
313	メンデルソン	〃		○			
314	善通寺練兵場	344		○			○
315	大森収容所の渡邊睦裕	345		○			
316	現役と予備役	346					○
317	ドイツの捕虜収容所(模型)	347		○			
318	歴代所長・分所長	349			○		

あとがき

本書は、太平洋戦争中日本が初めて開設した「善通寺俘虜収容所」と、戦後収容所に
関連して生じた出来事を、善通寺市立図書館が所蔵する資料を基にまとめた。作成に当
たりご協力いただいた次の方々に厚くお礼を申しあげたい。(敬称略)

明石和章、長部邦宏、加藤聖文、川崎智子、工藤洋三、國重博子、杉山利幸、
高田信二、多田善昭、立川京一、田中利幸、橋本正好、細谷恵子、三谷充弘、宮本義行、
矢原裕子、吉田文夫、Caroline Burkhart、Lindsey Jones、Marian May、
Peter McQuarrie

またご担当名は原則として割愛したが、善通寺市立図書館、浜松市立中央図書館、
POW 研究会はじめ次の組織・団体などからも様々なご支援をいただいた

【北海道】芦別市立図書館、星の降る里百年記念館(芦別市の郷土資料館)、【宮城県】
宮城県立図書館、【秋田県】秋田県立図書館、【福島県】福島県立図書館、【東京都】
株式会社朝日新聞社ライツ事業部、公益社団法人自動車技術会、精糖工業会、
株式会社草思社、独立行政法人農畜産業振興機構、公益社団法人著作権情報センター、
日本赤十字社広報室、不二出版株式会社、防衛研究所戦史研究センター史料閲覧室、
株式会社毎日新聞社知的財産ビジネス本部、靖国偕行文庫、【神奈川県】学校法人桐蔭
学院、【静岡県】静岡県立図書館、特種東海製紙株式会社、【大阪府】大阪市立中央図書
館、【兵庫県】兵庫県立図書館、【和歌山県】和歌山県立図書館、【広島県】広島県医師
会、広島県立図書館、【徳島県】徳島県立図書館、【香川県】香川県(環境森林部みどり
保全課、広聴広報課、農政水産部農業生産流通課)、香川県高等学校教職員組合、香川
県立図書館、香川大学、カトリック高松司教区本部事務局、株式会社四国新聞社メディ
ア室情報管理部、善通寺市教育委員会生涯学習課、【愛媛県】愛媛県立図書館、【福岡県】
福岡県立図書館

以上述べた以外にも、多くの方々から予想を超えるありがたいご協力ご支援をいただ
いた。すべての皆様に対し、重ねて心からお礼を申し上げたい。

以上

索引

B

B29（米爆撃機）, 16, 207, 208, 213, 222, 224,
227, 231, 300, 301

F

「FRONT」（写真誌）, 170

I

IPPNW（核戦争防止国際医師会議）, 267, 268

P

PBY→カタリナ

S

Sturgeon（米潜水艦）, 154

あ

秋田県, 219, 336, 364

朝日新聞, 20, 23, 25, 32, 36, 38, 41, 43, 45, 46,
48, 49, 50, 53, 57, 58, 62, 63, 67, 68, 69, 71,
101, 112, 165, 173, 267, 287, 288, 364

朝吹四郎（善通寺. 通訳）, 105, 210, 262, 266,
309, 341, 342

浅間丸, 110, 135, 145, 169

アフリカ, 145, 154, 168, 192, 347

アメリカ, 23, 49, 53, 68, 74, 82, 89, 107, 109,
116, 125, 179, 195, 199, 201, 202, 204, 213,
214, 218, 219, 222, 223, 239, 241, 244, 247,
254, 267, 290, 297, 310, 319, 321, 332, 336,
345

アメリカ人, 23, 82, 116, 125, 199, 202, 218,
241, 267, 290, 310, 332

アヤノ准尉, 224

有田和子（進藤一海軍少尉の妹）, 42

あるぜんちな丸, 23, 40, 308

アルバータッジ, 202

い

イエッター（米海軍看護婦）, 145, 307

イギリス, 105, 110, 125, 137, 199, 204, 241,
254, 258, 262, 315, 332, 336

英国, 16, 20, 21, 41, 42, 43, 74, 81, 89, 104,
153, 156, 166, 167, 169, 172, 176, 185, 187,
194, 199, 221, 234, 239, 247, 249, 251, 253,
254, 258, 266, 270, 275, 287, 315, 323

池田徳眞^{のりざね}（「日の丸アワー」放送主任）, 73,
105, 195, 196, 198, 199, 241, 251, 254, 344

医師, 16, 80, 83, 112, 116, 172, 208, 223, 239,
267, 268, 290, 316, 364

医者, 267, 290, 300, 301

イタリア, 191, 247, 285, 347

依知川（庸治. 善通寺師団参謀長）, 48, 73, 281,
283

伊藤光三（京大講師）, 139

井上成美^{しげよし}（第四艦隊司令長官）, 154

因島^{いんのしま}, 125, 186, 187, 201, 238, 258, 281

土生^{はぶ}, 125, 172, 187, 209, 258, 281, 289, 328

う

ウィリアムズ（英国植民地省．地区行政官）,
16, 20, 42, 43, 44, 51, 67, 72, 101, 104, 105,
106, 121, 126, 134, 135, 150, 151, 153, 156,
165, 177, 185, 192, 193, 195, 196, 198, 199,
218, 221, 234, 241, 251, 254, 262, 270, 275,
292, 293, 299, 304, 344, 345
ウィルソン, 310
ウィン, 181
ウェーク（ウェーキ）島, 15, 18, 75, 121, 134,
159, 179, 218, 262, 267, 294, 326
上野動物園, 191
上村幹男（情報局長官）, 15, 25, 36, 90, 92,
304, 305
ウサギ, 268, 315

え

英国→イギリス
英字新聞, 84, 128, 207
えいじゆ
衛戍司令官, 284, 318
衛戍病院, 80
衛生部員, 22, 80, 100, 172
衛生兵, 80, 82, 116
営倉, 11, 37, 149, 151, 247
衛兵, 11, 40, 58, 59, 82, 99, 104, 149, 150, 152,
165, 220, 224, 228, 229, 293, 302, 303, 332,
347
英連邦, 154, 167, 321
エクセター, 101, 167, 185, 221, 332
愛媛県, 36, 57, 58, 140, 158, 186, 206, 238,
349, 364
愛媛新聞, 201, 258
エリクソン, 137
沿岸監視員, 20, 21, 41, 211, 251, 272, 285, 291,

292

演芸会, 16, 176, 177
演習, 15, 31, 44, 128, 224, 302, 332, 346
エンタープライズ（米航空母艦）, 127

お

欧米, 29, 109, 116, 149, 306, 317
大岡昇平（作家）, 320
大蔵省, 72
大阪, 16, 25, 31, 35, 36, 38, 43, 49, 55, 57, 58,
62, 63, 67, 71, 73, 77, 118, 128, 134, 142,
160, 161, 173, 179, 200, 213, 220, 239, 307,
309, 312, 316, 319, 325, 327, 336, 364
大阪市立運動場, 142
大阪俘虜収容所, 38, 160, 179
おおさやま
大麻山, 97, 99, 101, 112, 140, 142, 161, 171,
263, 266, 289, 316
オーストラリア, 16, 39, 87, 150, 152, 153, 154,
156, 163, 176, 178, 183, 192, 209, 239, 254,
260, 266, 273, 291, 322, 326, 327, 329, 337,
341
豪州, 87, 89, 153, 156, 166
濠洲, 43
大船, 15, 121, 122, 207, 222, 247, 309
大船収容所, 121
大見屋, 53, 55, 285, 286, 350
大森, 90, 105, 192, 193, 194, 195, 196, 241,
251, 254, 275, 293, 328, 345
大山（勉, 憲兵）, 198
大山文雄（法務中将）, 312
オールズ（米海軍看護婦）, 111, 145, 307, 308
小笠原諸島, 23, 127
岡山（県）, 99, 140, 188, 220, 237, 2388
「おかawaiiそうに」（書名）, 165
沖縄, 36, 108, 208, 216, 221, 238, 239, 320

オックスフォード大学, 210, 262, 266
尾道, 140, 172, 186, 187, 281
オランダ, 93, 94, 107, 122, 137, 150, 151, 176,
178, 202, 323, 327, 337, 339, 341
オランダ
和蘭, 93, 137
オルセン, 16, 234

か

会議室, 123
海軍省, 73, 122, 243
海軍病院 (グアム) →グアム
外交官, 135, 147
偕行社, 91, 233
外国貨幣交換申込書, 86
開墾, 15, 97, 99, 101, 112, 140, 142, 171, 203,
266, 289, 316
外出, 85, 99, 128, 143, 165, 302, 303, 306
買出し, 15, 57, 58, 100
外地, 114, 230, 264, 280, 317, 318
ガイッシー (米諜報中尉) , 241
会報, 78, 99, 305
外務次官, 112, 137, 147
外務省, 15, 73, 129, 137, 147, 153, 162, 200,
258, 297, 323, 328
外務大臣, 137
香川 (県) , 15, 16, 18, 26, 35, 36, 38, 50, 51,
53, 72, 97, 110, 112, 140, 165, 179, 184, 185,
223, 236, 238, 242, 247, 264, 281, 288, 312,
316, 340, 349, 364
香川銀行, 65
香川近代史研究会, 45
香川県経済部長 (山口泉) , 140, 312
香川県警察部長 (下村鉄男) , 110, 140
香川県高等学校教職員組合, 53
こすげよしじ
香川県知事 (小菅芳次) , 112, 140, 141

香川県知事公室, 72
香川県庁, 141
香川大学, 36, 247
香川日日新聞, 43, 51, 52, 55, 57, 65, 67, 69,
97, 99, 110, 140, 141, 171, 179, 180, 306
香川県農政水産部, 185
香川版, 20, 41, 46, 50, 53, 57, 58, 67, 68, 69, 70,
135, 173, 262, 269
カズンス (カズン) , 16, 156, 183
カソリック, 153, 159
片原町, 26, 53
カタリナ (飛行艇) , 87, 194
PBV, 87
ガダルカナル島, 16, 181
かっけ
脚気, 83, 168, 179, 181, 202, 221, 290, 330, 368
カトリック (カソリック) , 153, 159, 260, 364
神奈川県, 15, 121, 122, 134, 364
カナダ, 81, 89, 106, 169, 251, 285
金武省三 (善通寺. 陸軍中佐) , 78, 162, 165,
325
がはいしきん
我拝師山, 231, 263
カルプフライシュ, 199, 241, 254
川崎 (市) , 16, 134, 160, 164, 316, 326, 364
川添ヤス子 (善通寺. 職員) , 189
監禁, 16, 71, 149, 150, 151, 152, 207, 285, 326
監禁者, 71, 149, 151, 285, 326
看護婦, 15, 16, 52, 57, 73, 80, 107, 110, 111,
112, 135, 145, 153, 208, 223, 285, 297, 300,
307, 308, 326
監視, 20, 21, 41, 59, 99, 149, 151, 161, 174,
187, 211, 236, 251, 272, 281, 285, 291, 292,
293, 299, 300, 301, 302, 342, 347
ガンビア (ニュージーランド軽巡洋艦) , 239

き

キー（ニュージーランド首相）, 251
企画院, 16, 160, 287, 312
汽車, 42, 61, 161, 173, 174, 225, 239, 339
記者, 15, 36, 43, 50, 55, 64, 166
キスカ島, 142
寄生虫, 179
寄贈, 18, 25, 84, 89, 129, 159, 168, 210, 247, 264, 274
岐阜県, 139, 219, 336
キャンベラ, 154
救恤きゅうじゅつ, 77, 168
救恤委員長, 112, 116
救恤（委員）部, 77
救恤品（救恤金品）, 77, 89, 168, 246
牛乳, 84, 118
休養室, 81
教育, 42, 53, 68, 81, 91, 123, 125, 128, 149, 184, 187, 194, 196, 244, 264, 280, 281, 294, 299, 310, 311, 318, 319, 320, 344, 346, 364
玉音放送, 228
京都帝国大学, 36, 139
許可, 71, 78, 99, 109, 123, 129, 137, 143, 147, 170, 173, 191, 266, 298, 302, 303, 336
軍事課, 142
ギルバート（ギルバー）, 41, 44, 61, 105, 126, 195, 251, 254, 291, 326

く

グアム（島）, 15, 18, 19, 22, 23, 38, 45, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 61, 63, 71, 72, 104, 107, 111, 121, 145, 153, 179, 204, 208, 218, 279, 292, 294, 307, 308, 319, 326
海軍病院（グアム）, 15, 107, 111, 145, 204

空襲, 15, 18, 23, 83, 127, 128, 129, 134, 154, 191, 207, 213, 214, 220, 222, 223, 224, 237, 239, 299, 301, 308, 336
駆逐艦, 21, 94, 167, 234
クック, 16, 37, 82, 83, 125, 153, 172, 188, 201, 203, 204, 209, 210, 214, 237, 249, 258, 266, 289, 315, 328, 336
久野寧（名大教授）, 139
グラハム, 109, 249
クリーバー, 267, 268
クリスチャンセン（米海軍看護婦）, 145, 307
クリスマス, 16, 19, 20, 22, 169, 176, 209, 307
グリップスホルム, 145, 169, 308
グリフィス, 21, 110, 135, 145, 326
軍医, 36, 80, 81, 82, 143, 172, 204, 221, 246, 284, 293, 300, 309, 312
軍医部, 81, 309, 312
訓示, 15, 27, 29, 35, 55, 71, 75, 99, 104, 110, 123, 140, 142, 284, 314, 317, 318
軍属, 75, 90, 228, 246, 285
軍隊内務書, 118, 119
軍刀, 59
軍務局, 17, 18, 40, 78, 115, 116, 225, 305
軍務局長, 17, 18, 78
軍令部, 122, 309

け

警察, 50, 71, 110, 140, 149, 151, 238, 300, 302, 306, 312
警保局, 71, 73, 312
経理概況（書）, 29, 31, 61, 84, 100, 118, 128, 286, 295, 297, 325
経理局, 40, 61, 295, 297, 312
下痢, 82, 168, 172, 289
現役, 31, 91, 184, 202, 279, 346

検閲, 73, 74, 159, 170, 202, 203, 204, 298
研究, 17, 18, 21, 25, 27, 29, 91, 119, 121, 122,
125, 127, 134, 139, 153, 156, 158, 160, 162,
172, 179, 181, 186, 194, 199, 206, 215, 217,
219, 222, 238, 244, 264, 269, 280, 290, 299,
310, 320, 321, 327, 329, 330, 335, 337, 364
ケンゲルバッヘル (ケンゲルバツハー) , 89,
129
健康, 80, 81, 123, 168, 182, 247, 287, 306, 315,
329
健康診断, 81
検査, 50, 55, 72, 86, 119, 202, 218, 242, 291,
293, 298, 346
原子爆弾, 227
ケンブリッジ大学, 20, 105, 210, 262, 266, 344
憲兵, 50, 55, 72, 196, 198, 222, 241, 298, 302,
306

こ

小岩井光夫, 196
壕ごう, 221, 224, 231, 334
防空壕, 224, 299, 301
交換船, 16, 110, 122, 145, 169, 182, 308
公使館, 89, 114, 129, 137, 200, 349
香色山こうしきざん, 344
豪州→オーストラリア
講習会, 15, 123
高知県, 216, 225, 262
神戸, 15, 16, 44, 71, 72, 75, 110, 111, 128, 129,
160, 200, 213, 221, 239, 285, 308, 326
神戸新聞, 110
ゴードン, 74, 82, 100, 101, 112, 125, 128, 166,
167, 168, 176, 188, 199, 204, 207, 218, 220,
221, 234, 237, 247, 253, 270, 289, 290, 299,
303, 315, 332, 337, 341, 342, 345

ゴールドブリス, 264, 265, 290
国際赤十字, 77
国際赤十字委員会, 38
国際法, 17, 18, 100, 114, 134, 244, 319
小倉, 172, 232
護国神社, 15, 26, 37, 51, 57, 58, 67, 140, 233,
237, 264, 302, 306
小菅 (芳次) こすげ よしじ →香川県知事
小包, 168, 169, 201, 218, 220, 221, 247, 264,
298, 347
金刀比羅宮, 50, 92, 97, 235
琴平参宮電鉄, 40
琴平町, 81, 97, 140
琴平電鉄, 50
小林久子 (駿河台分室職員) , 189
コルセア (米戦闘機) , 226
コレヒドール (島) , 107, 179, 199
近藤玉衛 (善通寺. 4代目所長) , 209, 217, 224,
336, 341, 342, 349
近藤壽雄 (丸亀高等女学校教諭) , 165
金毘羅, 50, 51
金毘羅宮, 50

さ

サイゴン, 122
サイパン, 207, 208, 320
サイレン, 128, 339
坂出 (市) , 16, 173, 174, 217, 226, 228, 243,
262, 316, 339, 340
坂出 (本) 駅, 16, 173, 174, 226, 339, 340
坂出港, 174, 226, 262, 316, 339
魚, 167, 308
酒, 53, 100, 108, 118, 119, 143, 177, 191, 233,
279, 286, 289, 316, 325
実松 譲さねまつ ゆずる (海軍参謀) , 121, 122

参拝, 50, 92, 140, 302, 306

散歩, 37, 44, 64, 66, 165, 267, 302, 303, 306

参謀総長, 196, 294

参謀本部, 16, 49, 74, 133, 153, 156, 170, 183,
189, 195, 196, 216, 225, 241, 304

塹壕, 221, 231

し

歯科医, 80, 116, 159

歯科機械, 116, 117

四国, 23, 32, 46, 48, 72, 82, 116, 140, 187, 188,
216, 217, 219, 221, 225, 238, 242, 243, 260,
267, 268, 274, 280, 281, 285, 308, 337, 339,
364

四国新聞, 46, 116, 243, 260, 268, 274, 364

静岡県, 78, 108, 151, 234, 299, 300, 364

師団長, 35, 78, 81, 92, 104, 118, 140, 158, 215,
280, 281, 302, 314, 341

シドニー, 156, 239

死の行進, 107

司馬遼太郎（作家）, 319

島津忠承（日本赤十字救恤委員長）, 112, 116

下村鉄男→香川県警察部長

シャーレーン, 145

チャーリン, 111, 145

ジャクソン（米海軍看護婦）, 145, 307

写真週報, 128, 130, 167

ジャワ島, 107, 125, 221, 317

上海, 17, 18, 149, 184, 280, 294, 317

宗教, 81, 159, 298

従軍牧師, 260, 330, 333, 337

銃剣, 59, 174, 347

銃後, 143, 288, 339

主計, 31, 36, 40, 92, 100, 123, 162, 279, 284,
287, 297, 324

収容棟, 44, 59, 107, 344

ジュネーブ（ジュネーヴ）, 80, 97, 112, 116,
182, 204, 322, 323

壽府, 323

酒保, 100, 108, 118, 119, 143, 177, 279, 286,
289, 316, 325

所員, 35, 36, 51, 90, 100, 104, 119, 123, 166,
247, 260, 284, 302, 304, 310, 318, 341

焼夷弾, 213

松根油, 215

小銃, 16, 59, 229, 339, 347

情報局（内閣情報局）, 73, 74, 89, 128, 130,
170, 183, 230

昭和東南海地震, 188

ジョーンズ（ニュージージーランド 沿岸監視員）,
6, 7, 20, 42, 43, 51, 57, 59, 74, 83, 97, 99,
105, 106, 109, 112, 126, 149, 159, 162, 169,
171, 173, 177, 179, 192, 211, 213, 219, 221,
222, 224, 226, 227, 228, 229, 231, 233, 239,
247, 251, 252, 263, 266, 272, 273, 289, 291,
293, 328, 337, 338, 339, 347

女学生, 165

職員, 16, 18, 31, 35, 53, 101, 115, 116, 140,
149, 189, 217, 243, 262, 267, 268, 280, 281,
284, 305, 310, 341, 364

植民地省, 20, 21, 41, 101, 104, 251, 258, 285,
291, 344

食料, 20, 118, 143, 168, 185, 188, 218, 220,
231, 239, 247, 288, 303, 307, 329

食糧, 82, 101, 168, 203, 209, 214, 215, 219,
221, 225, 230, 247, 262, 280, 287, 290, 329,
336

糧食, 27, 29, 31, 143, 279, 287, 289, 295

所長, 15, 16, 35, 36, 44, 55, 57, 67, 71, 75, 78,
86, 93, 97, 99, 100, 104, 105, 109, 112, 118,
123, 128, 140, 142, 152, 158, 184, 187, 198,

201, 203, 204, 209, 217, 221, 237, 246, 247,
258, 262, 267, 268, 284, 290, 297, 298, 302,
306, 309, 314, 317, 318, 322, 336, 341, 342,
349
シラミ, 179
シンガポール, 17, 90, 93, 104, 153, 194, 221,
272, 322, 347
神社, 37, 43, 58, 67, 233, 339
寝台, 43, 52, 237, 258, 347
進藤^{はじめ}一 (海軍少尉), 40, 42, 43, 50, 57, 75,
159, 309
人道, 77, 90, 92, 112, 114, 242, 267, 314, 317,
318, 320
シンプソン (米海軍代将), 234
尋問 (訊問), 15, 121, 122, 309
診療所, 82

す

炊事, 11, 27, 37, 55, 58, 64, 108, 143, 287, 290,
316
スイス, 15, 53, 89, 112, 114, 116, 129, 323, 349
スイス公使館^{スイス} (瑞西公使館), 15, 89, 116, 129,
349
水道, 37
スウェーデン, 137, 145, 226
^{スウェーデン}瑞典, 137
スープ, 40, 51, 204, 289, 308
杉山香也 (善通寺. 3代目所長), 184, 349
スキャンラン (スカンラン, スキャンロン. オー
ストラリア陸軍大佐), 154, 209, 332, 341,
343
スペイン人, 15, 39
住友鉱業, 206

せ

税関, 72
^{せい き るいじゅう}成規類聚, 60
西部軍, 312
誓約, 150, 322, 323
関口信 (善通寺師団. 経理部長), 27, 283
赤十字, 15, 25, 38, 74, 77, 80, 100, 107, 112,
116, 121, 137, 168, 169, 174, 178, 180, 182,
187, 193, 200, 201, 204, 208, 209, 218, 220,
221, 223, 246, 247, 254, 256, 260, 264, 267,
290, 293, 297, 303, 328, 347, 349, 364
赤十字国際委員会, 4, 15, 77, 112, 116, 137, 168,
200, 328, 349
石炭, 40, 59, 293
赤痢, 16, 81, 83, 172, 179
瀬島龍三 (参謀), 216, 225
瀬戸内海, 173, 188, 193, 220, 239, 267, 273
ゼロ・アワー, 156, 183
宣教師, 15, 39, 53, 71, 286
泉寿亭, 140
戦陣訓, 149, 319, 320, 321
潜水艦, 93, 94, 122, 150, 287
宣誓, 16, 149, 152, 158, 162, 208, 302, 322, 323
洗濯, 15, 66, 118, 150, 173, 293
善通寺駅, 10, 15, 26, 43, 75, 159, 185, 218, 220,
235, 330
善通寺 (俘虜収容所), 29, 31, 34, 35, 36, 39,
44, 51, 55, 57, 58, 59, 61, 67, 69, 71, 75, 79,
80, 81, 89, 92, 100, 104, 108, 112, 114, 116,
118, 119, 123, 128, 129, 134, 137, 143, 149,
153, 161, 164, 165, 166, 168, 170, 172, 173,
177, 182, 184, 189, 200, 206, 217, 242, 243,
247, 264, 279, 281, 284, 294, 295, 297, 298,
302, 306, 309, 312, 318, 325, 326, 327, 328,
341, 349, 364

善通寺〔寺院〕, 233

善通寺師団, 14, 15, 16, 17, 18, 31, 34, 35, 43,
48, 50, 61, 81, 92, 118, 135, 140, 179, 191,
215, 280, 281, 294, 295, 297, 314, 315, 324

善通寺支店, 65, 86

善通寺市立西中学校, 9, 15, 26, 273

善通寺市立東中学校, 273

善通寺市立図書館(蔵), 12, 48, 53, 116, 136, 162,
190, 198, 235, 243, 253, 256, 257, 259, 269,
274, 344, 364

善通寺大学, 129

善通寺西高等学校(善通寺第二高校) 26, 258, 264,
268

善通寺郵便局, 65, 100, 119

善通寺陸軍病院→陸軍病院

宣伝, 49, 84, 133, 134, 156, 167, 170, 183, 192,
196, 203, 225, 243, 305

戦犯, 16, 165, 217, 233, 237, 241, 242, 244,
246, 247, 253, 264, 290, 322, 345

そ

象頭山, 97

ソ連, 92, 158, 191, 336

た

ターナー, 153, 260

タイ, 7, 128, 129, 152, 165, 207, 221, 243, 251,
273, 275, 290, 298, 304, 315, 317

第11師団(第十一師団), 28, 208, 280, 281,
339

第32部隊(第三十二部隊), 142, 302

第三五部隊, 34

第55軍(第五十五軍), 216, 225

第55師団(第五十五師団), 23, 31, 36, 158,

184, 280, 281

第一次世界大戦, 25, 78, 90, 104, 134, 294, 311,
347

日独戦争, 25, 78, 294

大使館, 89, 266, 334

米国(アメリカ)大使館→米国大使館

体操, 15, 63, 64, 303

「大脱走」(映画), 90, 104, 149

タイナー, 275

第二総軍(広島市), 225

台風, 238

台本, 176, 177, 193

大本営, 122, 165, 167, 183, 225, 230, 241, 280

台湾, 16, 17, 36, 133, 134, 162, 204, 244, 317,
326

高松, 16, 31, 36, 39, 41, 43, 44, 50, 58, 86, 140,
161, 163, 165, 173, 189, 215, 220, 222, 223,
224, 228, 237, 247, 260, 262, 264, 288, 316,
339, 364

高松駅, 16, 161, 165, 173, 224

高松空襲, 223, 224

高松港, 39, 41, 44, 285, 316

高松高商, 31, 36

高松司教区, 261, 364

高松商業学校, 36, 247

高松赤十字病院, 223

高松百十四銀行, 86

高松放送局(NHK), 49, 247, 264

高松郵趣会, 163

たくみひろし
佗美 浩(善通寺. 2代目所長), 93, 158, 184

たけやり
竹槍, 339

多田昌子(善通寺. 職員), 116, 189, 243, 247,
264, 267, 268, 364

脱走, 150, 323

田所(善通寺師団. 中尉), 43

多度津(町, 地区), 15, 23, 39, 40, 45, 46, 49,

50, 51, 53, 61, 67, 69, 71, 72, 140, 142, 165,
174, 201, 217, 226, 228, 237, 243, 258, 281,
285, 292, 339, 340
多度津（本）駅, 16, 173, 174, 226, 339, 340
多度津港（栈橋）, 15, 23, 39, 40, 45, 46, 47,
49, 53, 65, 67, 69, 72, 111, 142, 174, 201,
281, 285, 292
多度津停留所,, 50, 71
田中英吉（司教）, 260
ダニエルソン, 162
谷山樹三郎（参謀本部）, 153, 198
タバコ（煙草）, 42, 66, 82, 90, 101, 118, 219,
233, 231, 304
卵, 58, 89, 204, 233, 286
タラワ島, 105, 195, 211, 251, 272
暖炉, 59

ち

チャーリン→シャーレーン
中国, 17, 21, 32, 41, 44, 72, 107, 135, 154, 184,
207, 217, 225, 237, 288, 291
注射, 81, 82, 300
朝鮮, 17, 50, 133, 134, 184, 244, 280, 317, 319

つ

通信, 41, 65, 74, 112, 128, 135, 163, 164, 166,
230, 298, 300, 305, 330
通牒, 17, 61, 72, 100, 156, 189, 230, 294, 309,
314, 315, 325, 341
通訳, 48, 76, 105, 109, 147, 193, 201, 210, 242,
246, 264, 266, 281, 284, 309, 310, 332, 342
津軽（機雷敷設艦）, 21
つねいしげつぐ
恒石重嗣, 16, 49, 156, 195, 196, 198, 225, 241,
243, 304

て

停留所, 50, 51, 71
手紙, 43, 51, 53, 99, 135, 154, 163, 194, 196,
198, 199, 204, 211, 219, 247, 251, 256, 266,
270, 271, 272, 337, 338
電車, 40, 48, 50, 51, 71, 173, 220
電灯, 37, 40, 51, 73
天皇, 25, 37, 69, 83, 125, 151, 153, 172, 187,
188, 201, 202, 203, 204, 207, 209, 210, 214,
218, 219, 228, 233, 237, 249, 258, 266, 281,
289, 290, 310, 315, 319, 328, 332, 336, 337
電話, 18, 37, 40, 73, 82, 191, 300

と

土井辰雄（カトリック教会司教）, 159
ドイツ, 21, 25, 78, 80, 87, 90, 134, 137, 149,
199, 247, 285, 336, 347
ドゥーリットル, 134
東京, 15, 16, 25, 49, 74, 75, 76, 77, 89, 90, 109,
116, 128, 135, 156, 159, 160, 170, 183, 192,
194, 196, 198, 203, 213, 214, 221, 237, 239,
241, 243, 247, 254, 262, 266, 275, 280, 291,
293, 297, 304, 310, 314, 316, 317, 318, 323,
326, 328, 336, 344, 345, 364
東京日日新聞., 49, 75, 291
東条英機（東条, 東條）, 16, 34, 78, 81, 90, 140,
149, 207, 280, 287, 293, 294, 304, 305, 314,
317, 318, 319, 320, 323, 345
逃亡, 16, 78, 99, 134, 149, 306, 321, 322, 323
東方社, 170
ドーリットル, 128, 129, 308
特技, 108, 317
徳島県, 184, 349, 364
特殊技能, 134, 164, 316, 326

図書, 18, 29, 35, 36, 53, 57, 60, 65, 71, 78, 107,
108, 116, 119, 139, 140, 147, 158, 162, 165,
179, 184, 189, 191, 198, 202, 217, 224, 235,
238, 243, 247, 256, 263, 264, 269, 274, 279,
280, 281, 288, 299, 300, 308, 316, 321, 334,
340, 341, 344, 346, 364
特高警察（課）, 50, 71
鳥取市, 188
鳥取地震, 188
トムソン, 87
豊橋, 220
トラック, 40, 109, 193, 196, 201

な

内閣情報局→情報局
内地, 16, 17, 114, 133, 147, 160, 165, 172, 225,
230, 247, 280, 297, 315, 318, 320, 339
中西嘉平（善通寺師団. 主計少佐）, 31, 297
長野県, 16, 43, 44, 51, 185, 199, 219, 220, 221,
234, 237, 275, 290, 293, 299, 336, 337, 345
永見俊徳（善通寺師団長）, 35, 81, 92, 140, 325
長嶺（善通寺師団参謀長）, 179
名古屋帝大, 139
南海支隊, 23, 154

に

新居浜, 140, 186, 206, 237, 238, 298
ニールセン, 163
肉, 74, 89, 289, 339
牛肉, 204, 231
鶏肉, 231
豚肉, 58, 231
西澤（俘虜情報局. 書記）, 112
日独戦争→第一次世界大戦

日米陸軍海軍階級比較表, 297
日課時限表, 55, 62, 63
ニッサン（日産自動車）, 109
日本放送協会, 15, 16, 73, 156, 183, 196, 198
日本円, 55, 86, 101, 291, 292
日本語, 50, 55, 59, 123, 128, 310, 334, 347
日本通運, 161, 316
日本ニュース, 4, 64
荷役, 16, 99, 108, 142, 165, 173, 174, 217, 219,
233, 239, 262, 316
ニューギニア, 23, 87, 153, 154, 191, 194, 254
ニュージーランド, 15, 20, 21, 41, 42, 104, 106,
178, 192, 239, 247, 251, 266, 272, 285, 291,
292, 327, 347
ニューブリテン島, 154
ニューヨーク, 145, 251, 254, 308
入浴→風呂

ね

根岸競馬場, 292

の

農地開発営団, 99, 161, 316
乃木神社, 58
乃木希典（陸軍大将）, 58, 215, 280
野原博隆（陸軍整備局. 少佐）, 164
野本（明. 因島分所長）, 187, 201, 258
水口（野本から改姓）, 201, 258

は

パーキンス, 254
パークハート, 179, 180, 199, 273, 274
バーデカー→ボーテカ

ハーバード大学, 267
 バウドン→ボーデン
 爆弾, 80, 214, 224, 227, 231, 299, 300, 339
 派遣所, 8, 186, 206, 217, 230, 328, 335, 336
 バターン, 107, 179
 秦賢助 (作家), 76, 309
 ハドソン, 185, 221
 花菱旅館, 50
 はぶ いんのしま
 土生→囚島
 浜名湖, 234, 299
 浜本純一 (参謀本部), 196, 198, 304
 パラヴィチーニ (パラヴィチニ), 80, 112, 116,
 168
 パラシュート→落下傘
 ハワイ, 75, 106, 122, 159, 193, 208, 251
 パン, 11, 40, 46, 51, 71, 74, 134, 207, 208, 286,
 287, 289, 308, 320, 339
 バンコック, 17
 班長, 58, 173, 183, 185, 227, 242, 264, 268

 ひ
 ピーナン, 82, 83
 ピカチ島, 20, 126
 飛行士, 82, 211, 222
 飛行艇, 87, 194
 非戦闘員, 15, 71, 178, 180, 193, 200, 327, 328
 筆工, 78, 284, 296
 日の丸アワー (海外ラジオ番組), 82, 156, 198,
 241
 火鉢, 59
 ひばり
 雲雀部隊, 154
 百十四銀行→高松百十四銀行
 病院, 15, 40, 71, 80, 81, 82, 101, 107, 111, 116,
 145, 172, 179, 201, 202, 204, 208, 209, 223,
 234, 238, 239, 242, 272, 293, 300, 303, 307,

327, 329, 330
 病院船, 208, 234
 病院船サンクチュアリ, 238, 239, 240
 標識, 230, 236
 平田 (善通寺師団. 参謀), 72
 ヒルトン, 127
 広島県, 32, 125, 186, 187, 217, 222, 238, 267,
 281, 364
 広島俘虜収容所, 206, 217, 349
 広島陸軍被服支廠, 32, 43

ふ

フィリピン (フィリッピン), 38, 107, 179, 183,
 219, 264, 317, 336
 フェリス, 76, 309
 フォガティ (米海軍看護婦), 145, 307
 福井県, 219, 256, 267, 336, 337
 福岡俘虜収容所, 160, 172, 186, 217
 福島茂吉 (外務省三等書記官), 200
 福山市, 217
 武士道, 25, 43, 74, 304, 306, 310
 藤村信雄 (駿河台分室. 所長), 198
 不寝番, 15, 59
 ブッシュ, 90, 193, 254, 323
 フランコム (フランコンベ), 194
 俘虜情報局, 15, 17, 18, 25, 38, 39, 40, 51, 90,
 92, 100, 107, 112, 114, 115, 116, 129, 137,
 158, 164, 178, 184, 200, 209, 230, 234, 241,
 243, 294, 297, 298, 305, 312, 314, 315, 317,
 318, 326, 328, 349
 俘虜管理部, 115, 134, 156, 160, 230, 243, 305,
 314, 315, 318
 俘虜給与規則, 297
 俘虜収容所条例, 284, 294
 俘虜取扱規則, 29, 101, 104, 149, 294, 302

俘虜取扱細則, 104, 294, 295, 297, 325

俘虜労役規則, 315

ブレニム (英爆撃機) , 96

風呂, 16, 57, 66, 151, 176, 177, 293, 332

入浴, 15, 57, 66, 293

浴室, 159

プロパガンダ, 73, 74, 128, 192, 207

文化学院, 196, 197, 214

文化キャンプ, 199, 254, 304

分所, 16, 125, 160, 162, 172, 173, 179, 186,

187, 201, 206, 217, 236, 238, 246, 247, 258,

262, 281, 290, 298, 318, 327, 328, 335, 336,

337, 341, 342, 349

へ

米英, 134, 142, 207, 246, 318, 334

米国, 15, 21, 39, 49, 51, 65, 73, 74, 75, 77, 80,

87, 89, 104, 106, 109, 110, 116, 122, 125,

127, 129, 135, 145, 147, 153, 156, 162, 164,

165, 166, 168, 176, 179, 182, 192, 195, 208,

211, 218, 222, 231, 234, 237, 239, 250, 251,

256, 262, 264, 267, 269, 271, 273, 274, 279,

285, 287, 307, 308, 310, 321, 323, 326

米国人, 15, 21, 39, 51, 74, 75, 80, 104, 106, 116,

125, 145, 153, 176, 179, 218, 231, 237, 239,

256, 262, 264, 267, 269, 271, 274, 285, 308,

310

米国赤十字, 169

米国大使館, 15, 89, 129, 135, 310, 326

兵^{へい}站, 216, 225

兵站総監部, 133

ペイン, 15, 39, 53, 75, 110, 285, 297, 326

ペイント代議士, 75, 110

ペスタロッチ, 204

別子銅山 (鉱業所) , 140, 206

ヘルマーズ (ヘルマース) , 53, 71, 84, 110,

135, 145

便所, 11, 80, 83, 237, 258, 342

ヘンショー (ヘンショウ) , 82, 106, 134, 159,

177, 192, 193, 195, 196, 198, 199, 241, 251,

252, 254, 271, 304, 344

編成, 17, 18, 23, 31, 36, 61, 99, 104, 183, 215,

216, 280, 281, 294, 318

ほ

ボイデッケル, 137

防疫, 172, 303

俸給, 29, 100, 101, 114, 279, 297

防空壕→壕

報知新聞, 51, 90, 92, 196

ボーテカ (バーデカー) , 93, 94

ボーデン (バウドン) , 93, 96, 104, 150

ポートモレスビー, 87, 154

ホール, 118, 153, 256

細谷雄平 (善通寺. 分所長) , 36, 46, 48, 51,

118, 129, 142, 143, 150, 217, 218, 224, 246,

247, 253, 256, 260, 262, 264, 267, 281, 290,

298, 309, 324, 325, 341, 342, 349, 364

ホチ (ビタミン剤) , 289

北海道, 219, 260, 328, 336, 364

歩兵第 43 連隊, 184

堀井富太郎 (南海支隊指揮官) , 23, 154, 283

濠洲→オーストラリア

ポルトガル, 145

ボルネオ, 93, 317, 322

香港, 17, 18, 25, 105, 193, 194, 294, 317, 323

ま

マーシャル群島, 21

舞阪町, 299

毎日新聞, 35, 43, 49, 55, 57, 58, 71, 73, 77, 128,

242, 262, 309, 364

前田 (精. 軍令部第三部長) , 309

マキン島, 15, 19, 20, 21, 38, 105, 134, 195, 211

マクミラン (マクミリン. グアム島総督) , 15,

16, 39, 48, 49, 52, 89, 116, 129, 147, 149,

162, 204, 242, 326

麻酔, 7, 83, 299, 301

マッキニース, 80, 116, 159

松本 (勝. 善通寺. 軍曹) , 58, 262, 286

松山 (市) , 25, 191, 201, 258

マニラ, 17, 107, 219, 239, 336

マラリヤ, 264, 298

丸亀, 25, 165, 173, 174, 225, 286, 339

丸亀中学, 174

丸亀連隊, 286

マレー, 15, 25, 93, 153, 158, 317

満州 (満州国) , 50, 134, 158, 208, 280

み

ミズーリ (米戦艦) , 16, 234

水口→野本

水原義重 (善通寺. 初代所長) , 15, 16, 35, 36,

44, 55, 57, 67, 78, 97, 99, 104, 105, 140, 158,

283, 284, 298, 325, 349

ミツジ [和中光次] のブログ (和歌浦からの捕
虜の帰国) , 238

^{みつしま}
満島 (長野県の収容所) , 43, 199, 220, 234, 237,
275, 336, 345

ミッドウェー海戦 (作戦) , 142

^{みとよ}
三豊市 (郡) , 50, 53, 97

都レストラン, 254

宮島巖 (海軍少尉) , 81

民間人, 74, 110, 165, 305, 336

む

無為徒食, 219, 314, 315, 317, 318

^{むかいしま}
向島, 186, 238

無線, 126, 127, 135, 145, 164, 272, 301

無電, 21, 41, 135

め

メッツェラー (メツラー) , 87, 150, 151, 152,
194, 327

メルボルン, 260

メンデルソン, 341

も

木炭, 40, 52, 59

門司, 16, 172

本川国民学校, 217

もんでびでお丸, 154

や

薬品, 82, 83, 231

矢代 (俘虜情報局. 書記) , 92

矢原高幸 (護国神社宮司) , 233, 237, 264

山口 (県) , 72, 184, 238

山口泉→香川県経済部長

山崎 (俘虜情報局. 大佐) , 112, 129

山手 250 番館, 15, 21, 42, 51, 72, 75, 110, 126,
134, 135, 199, 211, 218, 251, 272, 292, 293

山根分宿所, 206

闇 (市場, 取引) , 82, 100, 290

ヤルート島, 21

ヤンキー, 57, 222, 339

ゆ

優遇, 15, 89, 105, 114, 170, 304
郵便（郵便物）, 65, 169, 194, 298
郵便局, 65, 194, 251, 272
（ニュージーランドの）郵便局, 20, 251, 272
郵便葉書, 163
郵便貯金, 100,
郵便貯金法, 119
輸送船, 87, 93, 94, 239, 287, 329

よ

養兎, 161, 177, 315
傭人（員）^{ようじん}, 78, 104, 284
ヨーロッパ, 125, 128, 207, 336, 347
浴室→風呂
抑留者, 38, 44, 48, 50, 71, 77, 86, 110, 135, 200,
287, 305
横須賀, 72, 75, 93, 121, 166, 291, 292
横田利男（善通寺. 軍属）, 228
横浜（市）, 15, 16, 18, 21, 41, 42, 50, 51, 57,
67, 72, 75, 110, 112, 121, 122, 126, 134, 135,
145, 153, 159, 160, 199, 211, 217, 218, 224,
234, 244, 246, 247, 251, 272, 291, 292, 293,
308, 309, 326, 341
横浜地方裁判所, 244
吉田茂（善通寺. 主計中尉）, 23, 31, 36, 37, 40,
48, 52, 60, 72, 75, 110, 133, 145, 149, 153,
159, 162, 175, 208, 279, 281, 293, 294, 297,
309, 318, 324, 325, 326, 364
四元正憲（海軍主計中尉）, 92
予備役, 92, 184, 252, 262, 346
読売新聞, 35, 182, 191, 215, 269

ら

ラインベリー（ラインバリ）, 204, 332, 341
ラジオ, 16, 73, 74, 82, 156, 183, 199, 230, 339
落下傘, 230, 236
パラシュート, 231
ラバウル, 15, 23, 87, 153, 154

り

リーミング, 127
利益代表国, 53, 89
陸軍省, 17, 18, 25, 26, 35, 40, 61, 64, 73, 75,
116, 133, 137, 142, 150, 175, 184, 208, 225,
243, 295, 297, 305, 312, 315, 317, 318, 325
陸軍大臣, 34, 60, 78, 81, 90, 112, 140, 280, 281,
284, 294, 297, 304, 305, 312, 314, 317, 318,
319, 320
陸軍次官, 100, 147, 310, 341
陸軍病院, 40, 80, 81, 116, 172, 300
小倉陸軍病院, 172
善通寺陸軍病院, 40, 80, 81, 116
浜松陸軍病院, 300
陸軍法務局, 312
陸軍墓地, 269, 302, 303, 306, 334
陸戦条約, 18, 121, 323
両替, 86, 291, 292
領事館, 41, 135, 145, 349
糧食→食糧
リンゼイ, 273

る

ルーエン（ルオーヤン）, 93, 94, 137, 164
留守師団, 280, 281

れ

礼拝, 150, 266

列車, 16, 21, 41, 43, 92, 140, 165, 172, 174,

179, 220, 226, 228, 237, 238, 258, 292, 340

練兵場, 43, 44, 80, 302, 344

新兵訓練施設, 344

連絡船, 41, 140, 193, 220

ろ

ロシア, 192, 319

ロジャース, 262

ロスランスキー, 269

わ

ワイス, 341

和歌浦, 238

和歌山（県）, 16, 238, 239, 364

ワシントン, 49, 122, 182, 264, 307

渡邊睦裕（大森 軍曹）, 345

Table of Contents

Zentsuji Furyo Syuyojo Handbook

[Handbook of Zentsuji POW Camp]

Edited by

Yuichi Nagura

nagura95@gmail.com

Printed in 2021 in Hamamatsu, Japan

Zentsuji City Library holds this handbook to share the memory of Japan's First POW Camp in WWII
and the people who spent time there.

Contents

Explanatory notes (3)

Index (4-8)

Map of Zentsuji (9)

Map of Zentsuji POW Camp and its surroundings (10) / View of the camp (11) / Picture of the West
building for officers (12) / the East building for NCO, soldiers etc. (12)

Text

Summary (15-16)

1941

Dec. the War Office's plan for POW Camps (17) / Detailed instructions to Zentsuji Division (18) /
POWs' Christmas on Makin and Guam island (19-24) / Setup of POW Information Bureau (25) /
Zentsuji Division's preparation: conversion of empty barracks (26) / Colonel Sekiguchi's supply study
(27)

1942

Jan. Sekiguchi's principle (29-30) / Appointment (31) / Procurement of bedding (32-33) / The order from the Minister (34) / Setup on Jan.14 (35-36) / Construction work (37) / Irregular domestic camp (38) / Arrival of first POWs on Jan. 15. (39-54) *

* Preparation (40), Takamatsu Port (41), Naval escort from Yokohama (42), First impression of the camp (43-44), 9 POWs at Tadotsu Port (45), Landing of the 480 POWs and internees from Guam (46-47), Governor MacMillan of Guam (48-49), Streetcar (50), Arrival at midnight (51), Allocation of rooms (52), Four internees at Japanese-style hotel (53-54)

The following day (55-56) / Bathing (57) / Shopping in the town (58) / Night watch (59) / The statute book (60) / The report to the War Office (61) / Time table (62) / Exercise (63) / Newsreel (64) / Post office (65) / Washing (66) / Spectators (67) / Children (68) / POWs' life (69-70) / 134 Internees left for Kobe (71) / Customs' inspection (72) / Recording (73-74) / 13 POWs from Wake Island (75) / Round-table talk (76) / Japanese Red Cross Society (77) / Meeting (78) / Snapshots in the camp (79)

Feb. Health care (80-83) / Donations (84) / Strolls outside the camp (85) / Exchange of foreign currencies (86) / Crews of Australian flying boat (87-88) / A Swiss legation from Tokyo (89) / Inspection by the Director of POW Information Bureau (90) / Celebration of the fall of Singapore (91-92) / Three POWs from Malaya (93-96) / POW's postal savings (97) / Reclamation of Osayama (98-100) / Payment for officers (101-103) / Conflict (104-106)

Mar. Cosmetics supply for American five nurses (107) / Part-time job (108-109) / Nurses left for Kobe (110-111) / Inspection by International Committee of the Red Cross (112-113) / "Favorable treatment" (114) / POW Management Office (115)

APR. Dental equipment (116-117) / Canteen (PX) (118-120) / Naval hidden POW camp in Ofuna (121-122) / Lecture classes (123-126) / Crews of American bomber (127) / Doolittle Raid (128) / Revisit of the Swiss legation (129) / *Syashin Syuho* (a pictorial magazine) (130-132) /

May Top-secret paper (133-134) / Sending a POW to American Embassy in Tokyo (135-136) / A Swedish legation from Tokyo (137-138) / Academic research (139) / Inspection by the Prime Minister Tojo (140-141)

Jun. Dispatch of 151 POWs to Osaka (142-144) / Repatriation ship (145-146) / Negotiation between Ministries (147-148)

Jul. Confinement and Resistance (149-152) / 52 Australian POWs (153-155) / An Australian POW on paper (156-157)

Aug. Appointment of new director of the camp (158) / Donation of Catholic books (159) / Decision to transfer POWs in to Japan (160) / Labor at Takamatsu Station (161) / Governor MacMillan left for Taiwan (162) / Letters (163)

Sept. Dispatch of 25 skilled POWs to Kawasaki (164) / Contact with high-school girls (165) / Captain Gordon of Royal Navy (166-167)

Oct. Charity goods from American Red Cross (168-169)

Table of Contents

Nov. Photos for propaganda (170) / Harvest (171) / Dispatch of 40 medical POWs to Kyusyu (172)
Dec. Labor at Sakaide Station (173-174) / Monthly report (175) / Entertainment (176-177) /
Number of POWs (178)

1943

Jan. 150 officers out 50 NCO in (179-180)
Feb. The first dead (181) / Announcement of American Red Cross (182)
Mar. POWs and overseas broadcasting (183)
Jun. The third director of the camp (184) / Gardening (185)
Jul. Three branch camps (186-187)
Sept. Earthquake (188) / Female new employees (189-190)
Oct. Temperance in Zentsuji Div. (191) / Sending two candidates for broadcasting to Tokyo (192-193) / Interviews (194-195)
Dec. “Bunka Camp” (196-197) / Refusal of broadcast (198-199) / A secretary from the Ministry of Foreign Affairs (200) / Transfer of Fletcher-Cooke to Zentsuji (201-202)

1944

Mar. Order to the officers (203)
Apr. The representative of International Committee of the Red Cross (204-205)
May Setup of a Sub-branch (206)
Jul. The Resignation of the entire Tojyo Cabinet (207) / The fall of Guam Is. (208)
Nov. Appointment of the 4th Director (209)
Dec. Party of Oxbridge’s alumni (210) / Death of friends (211)

1945

Jan. Air raid of Kobe (213-214)
Feb. Pine oil (215)
Apr. Defence of Shikoku (216) / Transfer to Hiroshima POW Camp (217)
Jun. Transfer of the whole Officers (218-221) / Crash of a B-29 bomber (222)
Jul. Takamatsu air raid (223-224) / Logistics Staff officer (225)
Aug. Hiroshima (226) / Sakaide Port (227) / The end of war (228) / Occupation by POWs (229) / Relief supplies by B-29 (230-232) / Rapport between POWs and residents (233)
Sept. Handover of 109 POWs to the occupation army (234-235) / Report of drop by B-29 (236) / Repatriation (237-240) / Search for war criminals in Tokyo (241)
Oct. Search for war criminals in Zentsuji (242)
Nov. Closedown of Zentsuji POW Camp (243)
Dec. BC-class war criminal trial (244-245) / The accused (246) / Guilty verdict upon Hosotani (247)

Ties of Ex-POWs: U. K. (249) / U.S.A. (250) / John M. Jones and his friends (251-252)

Reconciliation: O. L. Gordon & Hosotani Yuhei (253) / Ikeda Norizane & Charles F. Williams (254-255) / George M. Hohl & Hosotani (256-257) / John Fretcher-Cooke & Minakuchi Akira (258-259) / Tanaka Eikichi & V. S. Turner (260-261) / E. G. Rodgers & Hosotani (262) / An American Naval Officer (263) / Samuel A Goldblith & Hosotani (264-265) / John L. May & Asabuki Shiro (266) / David D. Kliewer & Tada Masako (267-268) / Marvin A. Roslansky (269)
Recollection : Charles F. Williams (270) / George H. Henshaw (271) / John M. Jones (272)
Children : Marian May (273) / Caroline Burkhart (274) / Caroline Tyner (275)

Appendices

A pay officer (279) / Zentsuji Division (280-283) / Participants (284) / First POWs & internees (285) / Meals (286-290) / Japanese currencies (291-292) / Bath (293) / Regulations (294-297) / Communication with homelands (298) / Surgical operation (299-301) / Outside walk (302-303) / “Favorable treatment” (304) / Setup of POW Management Office (305) / Request of the director (306) / Recollection of nurses of American Naval Hospital (307-308) / Interrogation (309) / POW education (310) / Technology transfer from POWs during WWI (311) / Visit of the Prime Minister (312-318) / *Senjinkun* military code (319-321) / Written oath of non-escape undertaking (322-323) / Reports (324-325) / Transition of the number of POWs in Zentsuji (326-328) / The dead (329-334) / Composition of Zentsuji camp (335) / Transfer of the whole officers (336-338) / A POW and a school boy story at Sakaide station (339-340) / Ill-treatment (341-345) / Military reserve (346) / Comparison of POW Camp: Japan & Germany (347)

Basic information on Zentsuji POW Camp (349-350)

Bibliography (351-354)

Illustrations (355-363)

Afterword (364)

Index (365-379)

Table of Contents (381-384)

名倉有一 1950 年生まれ.

『日の丸アワー：対米謀略放送物語』（中公新書）に興味をもち、
余暇に当時の関係者を探し、話を聞く。定年後自作した報告書を
善通寺市立図書館、スタンフォード大学・フーヴァー研究所などに
寄贈。NPO 法人インテリジェンス研究所特別研究員。

ぜんつうじふりよしゅうようじょ
「善通寺俘虜収容所」ハンドブック

たいへいようせんそうはつ ほりよしゅうようじょひとひと きろく
太平洋戦争初の捕虜収容所と人々の記録

なぐらゆういち
編集：名倉有一

発行：2021 年 8 月 於浜松市

私家版

連絡先：nagura95@gmail.com

正誤表

2021年10月18日現在

『「善通寺俘虜収容所」ハンドブック』初版用

ページ	行	誤	正
72	脚注172 ○4,5	(補足) 異国種らしい野草	「トゲミノキツネノボタン」 【出典】和気俊郎. 香川県帰化植物目録(4). 香川大学学術情報リポジトリ, p.4.
86	4	368名	355名
166	脚注418 ○4	通信社OB	通信社の方
371	右 3	しげるきるいじゅう	せいきるいじゅう
372	「た」	第11師団 (第十一師団) 28	(28削除)